

各 位

本日(9月28日)弊社にて開催いたしました、  
「株式会社アルバック第102回定時株主総会  
及び株主懇談会」のプレゼンテーション資料  
を開示いたしますので、よろしくご査収の  
ほどお願いいたします。

株式会社 アルバック

# 第102回 定時株主総会

平成18年9月28日

株式会社 アルバック

# 事業の経過及び成果

## ■ 経営環境

### ▶ 米国

原油価格の高騰、金利上昇などの影響や住宅市場の軟化により、個人消費が減速してまいりましたが、企業部門の設備投資は堅調に推移いたしました。

### ▶ 韓国、台湾、中国(アジア地域)

為替の影響で輸出産業に影響がでているものの、設備投資は引き続き活発な状況が続いており、総じて堅調に推移いたしました。

### ▶ 日本

個人消費と設備投資が回復をみせ、アジア方面を中心とした輸出が引き続き増加したことで企業業績は底堅く推移し、景気拡大基調が継続しました。

## ■ 事業環境

### ▶ FPD (フラットパネルディスプレイ)、電子部品及び半導体関連の業界の設備投資

韓国、台湾、中国を中心に、大画面(液晶、プラズマ)テレビ、携帯電話、携帯音楽プレイヤーなどのデジタル家電関連の投資が積極的に行われました。また、エネルギー・環境関連では、環境対応型のハイブリッドカー関連や太陽電池への設備投資が新たに開始されました。



大画面テレビ



携帯電話



ハイブリッドカー

## ■ 当社グループの対応(1)

### ▶ 販売

- ◆ 独創的な新製品を競合他社に先駆けて市場に投入
- ◆ アルバックソリューションズの推進による積極的な受注活動を行ってまいりました。

### ▶ 積極的な設備投資

- ◆ 成長する地域である中国、韓国、台湾への積極的な投資を実施するなど、事業の拡大を図ってまいりました。

## ■ 当社グループの対応(2)

### ▶ 生産改革

お客様からの価格引き下げ要求が継続する中、生産改革第2段階の推進によりコストダウンを図るとともに、諸経費の削減を継続することで、固定費の圧縮を進めてまいりました。

- ◆ 上期は、台湾、韓国向けの開発要素の高い第6世代以降液晶ディスプレイ製造装置立ち上げ時の追加原価の発生などにより、十分な利益を確保することができませんでした。
- ◆ 下期は、生産効率の向上やコストダウンを行い、利益を確保することができました。

# 第102期 (H18/6期) 業績 (連結)

【単位: 億円】

	第101期 (H17/6期)	第102期 (H18/6期)	前期比
受注高	2,062	2,360	297 (+14%)
売上高	1,968	2,125	156 (+8%)
経常利益	124	148	23 (+19%)
当期純利益	71	81	10 (+13%)

【( )内は増減率、 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

# 企業集団の事業セグメント別状況

【単位：億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)
真空関連事業 (営業利益)	2,045	113	1,812	106	1,137	131
	-		119		-	
その他の事業 (営業利益)	315	124	313	119	56	104
	-		28		-	
合計	2,360	114	2,125	108	1,192	129

【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

# 真空関連事業(1)

## ■ディスプレイ及び電子部品製造装置

- ▶日本、韓国、台湾、中国などのアジア地域において第5～第8世代の液晶ディスプレイやプラズマディスプレイなどの設備投資が積極的行われた。
- ▶「SMDシリーズ」、「SDPシリーズ」、「ECHシリーズ」などの売上が好調を維持。
- ▶大画面(液晶、プラズマ)テレビ対応の設備投資が積極的行われたことにもない、受注及び受注残高が大幅に増加いたしました。
- ▶電子部品製造装置では、「SRHシリーズ」などの受注や売上が好調でした。

枚葉式  
スパッタリング装置



SMDシリーズ

インライン式  
スパッタリング装置



SDPシリーズ

インライン式  
真空蒸着装置



ECHシリーズ

## 真空関連事業(2)

### ■半導体製造装置

- ▶ デジタル家電関連では、携帯音楽プレイヤー、携帯電話、デジタルカメラなどに使用されるフラッシュメモリ、発光ダイオード(LED)などの化合物半導体、ハイブリッドカーや家電用のパワーICなどの設備投資が積極的行われました。
- ▶ 「CERAUSシリーズ」、「ENTRON™-EXシリーズ」や「RISEシリーズ」などの受注や売上が好調を維持いたしました。

#### スパッタリング装置



CERAUSシリーズ



ENTRON™シリーズ

#### エッチング装置



NEシリーズ



RISEシリーズ

## 真空関連事業(3)

### ■コンポーネント

- ▶主に液晶ディスプレイなどのFPD製造装置向けにドライポンプ、ターボ分子ポンプの受注が好調でした。その他、自動車や電子部品業界などの真空ポンプ、真空計やヘリウムリークディテクタの受注も好調を維持いたしました。
- ▶FPD、半導体業界などのプロセス管理向けにガス分析計の受注が好調でした。

ドライポンプ



液晶ディスプレイ  
製造装置向けドライポンプ

ターボポンプ



ヘリウムリークディテクタ



## 真空関連事業(4)

### ■その他

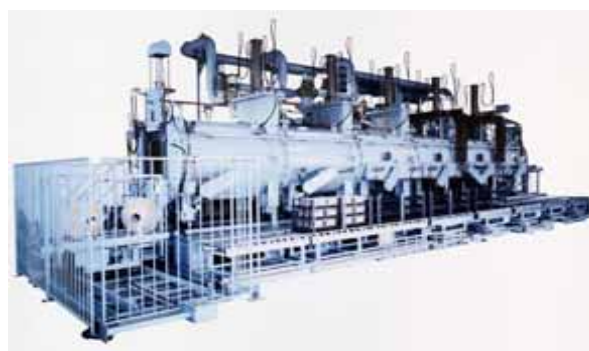
- ▶一般産業用としてハイブリッドカー向けのコンデンサ用真空蒸着装置「EWシリーズ」や真空熱処理炉「FHシリーズ」、真空溶解炉「FMIシリーズ」など自動車関連の受注が好調に推移いたしました。

#### 真空蒸着装置



コンデンサ用  
巻取式真空蒸着装置

#### 真空熱処理炉



希土類磁石用  
連続式真空熱処理炉

#### 真空溶解炉



希土類磁石用  
真空溶解炉

## 真空関連事業

液晶ディスプレイ関連やフラッシュメモリなど  
半導体関連の設備投資が積極的に実施。

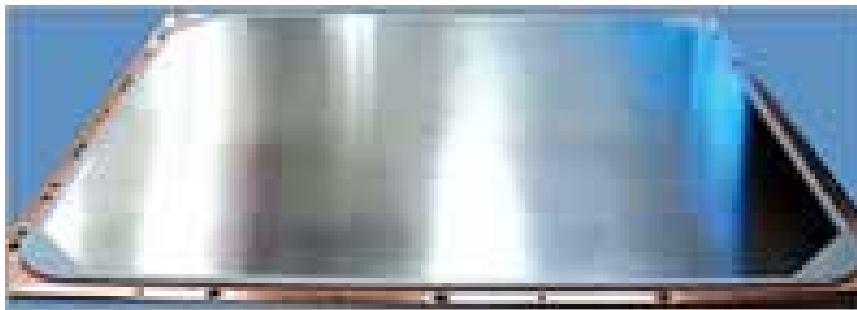
受注高	2,044億96百万円
受注残高	1,136億78百万円
売上高	1,811億55百万円
営業利益	118億82百万円

# その他の事業

## ■その他の事業

- ▶ アルバックソリューションズを生かしたグループ一体となった積極的な拡販活動を行い、韓国、台湾、日本を中心に液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料や部品洗浄などの材料ビジネスが受注、売上とも好調でした。
- ▶ 自動車関連向けの制御システムが、中国、韓国を中心として、受注、売上とも好調でした。

### スパッタリング ターゲット材料



液晶ディスプレイ用  
スパッタリングターゲット



半導体用  
スパッタリングターゲット

## その他の事業

液晶ディスプレイ関連業界の設備稼働率が向上したことにより、スパッタリングターゲットなどの材料関連の受注が増加。

受注高	314億66百万円
受注残高	55億53百万円
売上高	312億99百万円
営業利益	28億29百万円
(材料関連が寄与)	

# 設備投資の状況(主なもの)

設備投資の総額: 167億24百万円

- 電子機器関連及び半導体のスパッタリング、  
CVD、エッチングなどの評価装置  
(当社)
- 電子材料製造用建物、生産設備  
(アルバックマテリアル)
- 電子機器製造装置用建物、  
生産設備  
(愛発科真空技術(蘇州)有限公司)
- 一般産業機器製造装置用建物、  
生産設備  
(愛発科中北真空(沈陽)有限公司)

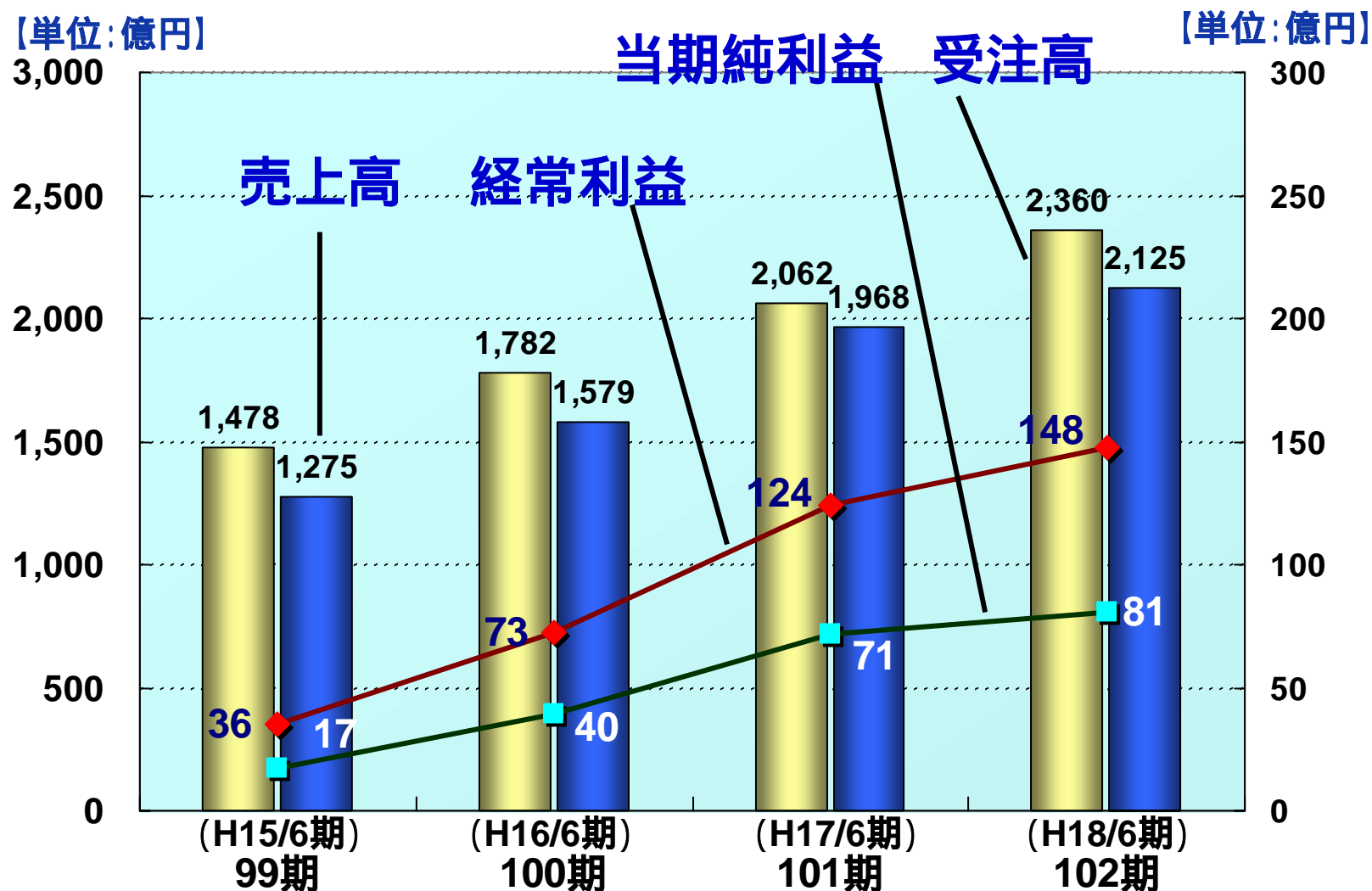


## 資金調達の状況

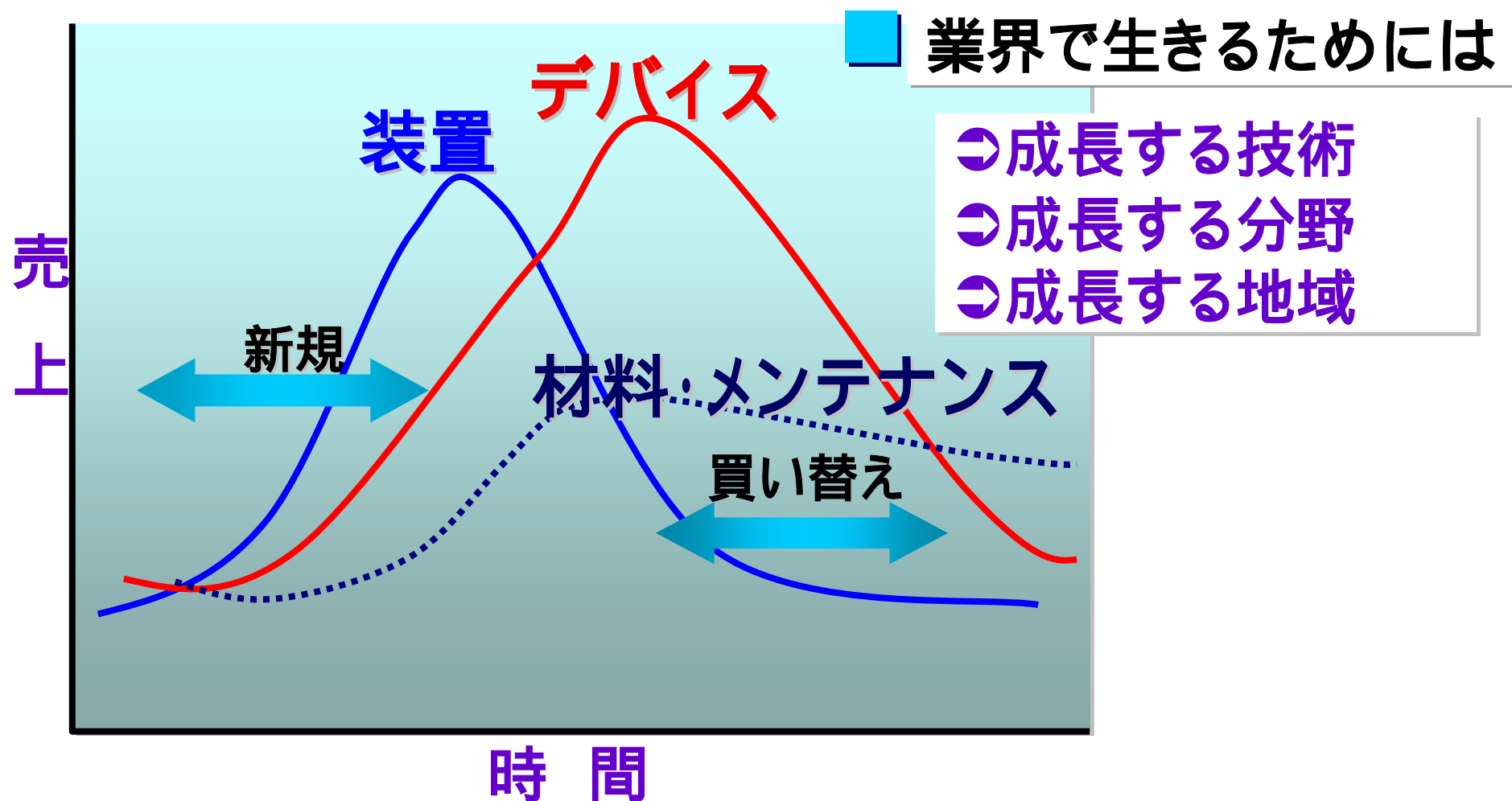
当連結会計年度は、社債または新株式の発行等による資金調達は行っておりません。

当社グループの当連結会計年度末の借入金、社債及びコマーシャル・ペーパーの総額は、582億57百万円となっております。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)



# 製造装置ビジネスの特徴



# 事業環境(1)

## ■ FPD・電子部品及び半導体関連業界の事業環境

### ▶ 中期的

FPDやデジタル家電関連分野が周期的な変動をしながら成長を維持すると予想されるものの、液晶ディスプレイの設備投資の成長はいずれ成熟すると思われます。

### ▶ 長期的

ハイブリッドカーや二次電池、太陽電池などエネルギー・環境分野で新たな成長が始まると期待されます。

### ▶ 地域

中国が全世界の製造業を牽引し、同国の著しい経済成長が日本や世界の経済に大きな影響を与えています。

## 事業環境(2)

### ■ FPD・電子部品及び半導体関連業界の事業環境

#### ▶ 製造装置業界

デフレ経済の影響による市場価格の下落が継続し、製造装置メーカー間でのM & Aなど生き残りをかけた競争が激化する中で、韓国、台湾、中国などの製造装置メーカーが、競合先としてシェアを獲得するようになりました。

## ■ 中長期の成長戦略

既存のFPD、電子部品及び半導体製造装置のシェアを拡大するだけでなく、FPDの次に成長する「4つの柱(ポストFPD戦略)」を積極的に推進していきます。

### 4つの柱

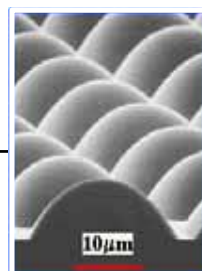
- ▶ デジタル家電用電子部品製造装置
- ▶ エネルギー・環境関連製造装置
- ▶ 中国市場
- ▶ カスタマーサポート事業とOEM生産

# ポストFPD戦略

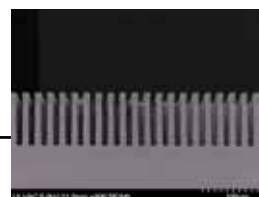
## ■ デジタル家電用電子部品製造装置

▶ 化合物半導体  
(LEDなど)

▶ MEMS



マイクロレンズアレイ



シリコンディープエッチング



エッチング装置



光学薄膜用  
スパッタリング装置

▶ 光学薄膜デバイス

▶ 高密度実装

デジタル家電に使用される半導体製造技術を応用したデバイスなどの製造装置の開発と拡販を進めます。



スパッタリング装置

# ポストFPD戦略

## ■ エネルギー・環境関連製造装置

### ▶ ハイブリッドカー

- ◆ 永久磁石  
(モータ用希土類磁石)
- ◆ コンデンサ  
(フィルムコンデンサ)
- ◆ パワーIC  
(極薄ウエーハ、SiC等)



真空蒸着装置



真空焼結炉



真空溶解炉



スパッタ装置



イオン注入装置

### ▶ 太陽電池

- ◆ スパッタリング、CVD装置



CVD装置

環境対応型として注目されているハイブリッドカーに使用される部品や太陽電池用製造装置の開発と拡販を進めます。

# ポストFPD戦略

## ■ 中国市場

- ▶ コンポーネント
- ▶ 一般産業機器
- ▶ 電子機器
- ▶ FPD・半導体



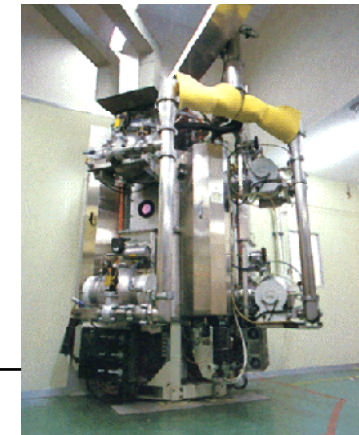
真空ポンプを量産する  
寧波アルバック

ローテクからハイテク分野までが同時に成長する中国市場で、製造装置やコンポーネントの現地生産を軌道に乗せ、トップシェア獲得をめざします。

# ポストFPD戦略

## ■ カスタマーサポート事業とOEM生産

- ▶ 材料、消耗部品、洗浄、サービス
  - ◆ CSソリューションパッケージ
- ▶ OEM生産



光学膜用スパッタリング装置  
MetaMode®

お客様に密着したサービスを提供することで、お客様との信頼関係を確保します。  
また、材料、消耗部品、洗浄などのカスタマーサポートビジネスを推進し、変動の激しい製造装置ビジネスの安定化と収益向上をめざします。

# コストダウン戦略

## ■製造業の原点にもどり生産改革の推進

「良い物を安く、速く、万全のサービスを提供しながら利益を上げる」

## ■攻守織り交ぜた施策の実施

### ▶攻めの施策

～コストダウン、納期短縮、標準化、効率化など

### ▶守りの施策

～追加原価の発生や納期遅延を抑制

生産改革をさらに推進し、製品の価格競争力と収益力の向上をめざします。

# 受注拡大戦略

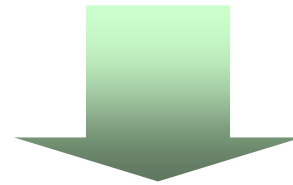
- 新製品の開発により装置のラインナップを増やすことと、シェアアップにより受注拡大をめざします。
  - ▶ FPD製造装置、半導体製造装置、コンポーネント、一般産業機器及び分析機器といった「既存分野」
- 次世代技術や最先端技術に関する設備投資が積極的に行われると予測され、それらの市場への事業展開を行っていきます。

# 受注拡大戦略

- 中長期的な視野に立った受注拡大を図ります。
  - ▶ 新たな成長のための「ポストFPD戦略」の4つの柱を推進
- 「アルバックソリューションズ」を活用し、シナジー効果による受注拡大をめざします。
  - ▶ お客様の生產品目に合わせて、当社グループで提供できる製造装置、材料、分析機器、コンポーネント及びカスタマーサポートなどをパッケージとして提案

# 財務戦略

- 収益力の向上、運転資金の圧縮などに一段と注力
  - ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローの獲得



- ◆ 新商品開発戦略、グローバル化戦略の実現に向けた投資資金
- ◆ 生産能力の増強のための設備資金
- ◆ 試作開発ラインの増設資金

# 新商品開発戦略

## ■ 競合他社が真似できない、独創的で最先端の新製品を開発

### ▶ FPD分野

#### ◆ 大型基板ディスプレイ製造装置 →

(第10世代を見据えた液晶ディスプレイ製造装置や大型基板対応のプラズマディスプレイ製造装置)



縦型枚葉式スパッタ装置

#### ◆ 次世代ディスプレイ製造装置 →

(有機EL、フィールドエミッションディスプレイ(FED))



有機EL用真空蒸着装置

#### ◆ インクジェットプリンティング装置 →



生産用 Litrex M700

# 新商品開発戦略

## ■ 競合他社が真似できない、独創的で最先端の新製品を開発

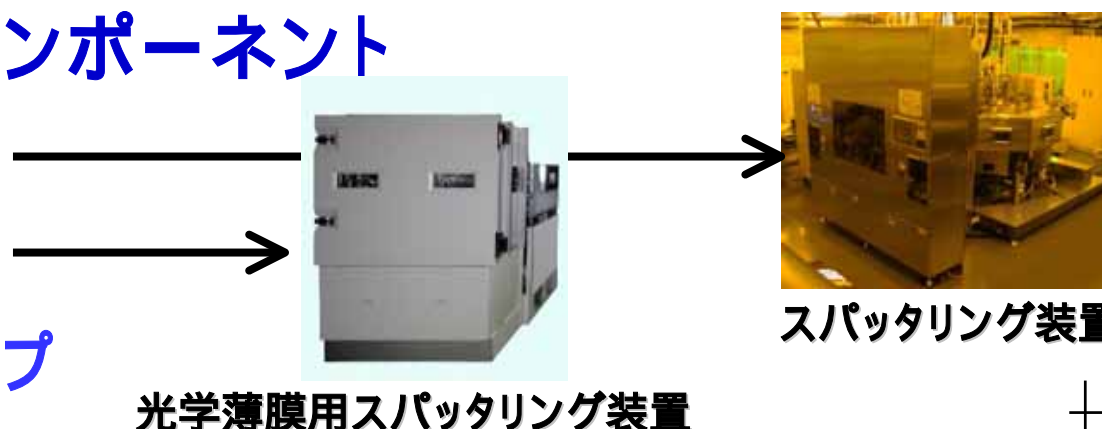
### ▶ 半導体分野

- ◆ フラッシュメモリ
- ◆ 化合物半導体
- ◆ MEMS
- ◆ パワーIC



### ▶ 電子部品分野・コンポーネント

- ◆ 高密度実装基板
- ◆ 光学薄膜
- ◆ 大容量ドライポンプ



# グローバル化戦略

成長する地域である中国、韓国、台湾を中心に引き続き事業の拡大を図ります。

## ■中国

▶愛発科中北真空(沈陽)  
有限公司の稼動開始  
(平成17年9月)



希土類磁石製造用真空熱処理炉などを製造・販売

▶愛発科真空技術(蘇州)有限  
公司2期工事完成、稼動開始  
(平成17年9月)



カスタマーサポート事業推進及び電子部品製造装置を製造・販売

# グローバル化戦略

## ■中国

- ▶ 愛発科東方真空(成都)  
有限公司工場竣工  
(平成17年11月)



家電や自動車関連部品の漏れ探し装置などを製造・販売

- ▶ 愛発科(中国)投資有限公司設立  
(事業統括会社)  
(平成18年3月)



中国における子会社の管理統括  
今後の中国の事業展開における戦略の立案と投資

# グローバル化戦略

## ■韓国

### ▶ ULVAC CRYOGENICS KOREA INCORPORATED 工場竣工

(平成17年11月)



F P D製造装置や半導体製造装置に使用される真空ポンプ(クライオポンプ)を製造

### ▶ ULVAC KOREA,Ltd.

◆クリーンルームの増設

◆大型部品加工工場の増設

(平成18年11月稼動予定)



第7世代以降の液晶ディスプレイ製造装置の生産

# グローバル化戦略

## ■台湾

- ▶ULVAC Taiwan  
Manufacturing Corporation設立  
(平成17月12月)



液晶ディスプレイ製造装置などの現地生産

- ▶Ultra Clean Precision  
Technologies Corp.設立  
(平成17月12月)



部品加工や部品洗浄などのカスタマーサポート

- ▶ULVAC AUTOMATION  
TAIWAN Inc.設立  
(平成18年4月)



制御盤など製造

# グローバル化戦略

## ■東南アジア

▶ULVAC (THAILAND)  
LTD.設立  
(平成17年11月)



販売、カスタマーサポート

▶マレーシア・  
クアラルンプール工場設立  
(平成18年5月)



部品洗浄やカスタマーサポート

当社は、引き続き成長する  
地域へ積極的に進出し事業の  
拡大を図ってまいります。

# 今後の主な設備投資予定

## ■ FPD製造装置の試作開発、大型化、増産対応の設備投資



ULVAC Taiwan Manufacturing Corporation新設



当社愛知工場新設



ULVAC KOREA,Ltd.玄谷工場及び部品加工工場増設

# 今後の主な設備投資予定

## ■ FPD関連ターゲット材料、表面処理ビジネス増強の設備投資



Ultra Clean Precision  
Technologies Corp.新設



アルバックマテリアル(株)  
富里事業所新設



アルバックマテリアル(株)  
東北事業所増設



アルバックテクノ(株)  
ケミカルセンター新設

# 今後の主な設備投資予定

## ■ ポストFPD対応を見据えた設備投資



当社茅ヶ崎工場リニューアル



アルバック東北株  
一般組立工場増設



愛発科(中国)投資有限公司新設

# 今後の主な設備投資予定

## ■ 次世代技術に向けた研究開発対応の設備投資



当社千葉超材料研究所新棟建設移転

真空技術をコア技術とし、製造装置や材料、サービスなど総合的なソリューションを提供するグループとして事業の拡大に努め、株主各位のご期待に応えてまいります。

# 河川汚染事故について

平成18年7月にアルバック九州株式会社で、新規設備導入準備中に、排水溝から中和処理が不十分な排水が河川に漏れ出すという事故が発生いたしました。

## 事故直後の対応

「水質汚染事故対策本部」を設置。東証への開示、プレス発表。当該装置の自主的な操業停止。

## 地域への対応

- ▶ 地域行政及び地域自治会を訪問、説明。
- ▶ 新聞のチラシで事故原因と状況、今後の対応策のご報告。

# 河川汚染事故について

## 事故による影響

- ▶ 地域住民の方々の健康や当社グループの業績ならびにお客様への影響はございません。

## 今後の対応

- ▶ このような環境事故を未然に防ぐため、国内外の各事業所の設備の一斉調査を実施。
- ▶ 拠点毎に専任の管理者を配置。
- ▶ 茅ヶ崎本社は専任の統括管理者を配置。

今後は、二度とこのような事故を起こさないよう万全を期する所存です。

# 河川汚染事故について

---

株主の皆様を始め関係各位に大変なご迷惑をお掛けしましたことを、心からお詫び申し上げます。

# 連結財務諸表

# 連結貸借対照表(資産の部)

	第101期	第102期	増 減
流動資産	1,472	1,787	315
現金及び預金	175	110	66
受取手形及び売掛金	686	834	148
たな卸資産	525	747	223
繰延税金資産	45	42	3
その他	44	56	13
貸倒引当金	2	2	0
固定資産	770	907	136
有形固定資産	539	608	69
建物及び構築物	228	248	20
機械装置及び運搬具	189	193	4
工具器具及び備品	22	26	4
土地	75	91	16
建設仮勘定	24	50	26
無形固定資産	44	55	11
投資その他の資産	187	243	56
投資有価証券	102	149	48
差入保証金	13	13	1
繰延税金資産	35	37	2
その他	40	45	5
貸倒引当金	2	1	1
資産合計	2,243	2,694	451

【単位:億円】

売上増による

期末受注残高増による

事業拡大のための生産能力  
増強の設備投資などによる

中国・台湾を始めとする非連  
結子会社への投資など

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目  
の合計値が一致しない場合があります。】

# 連結貸借対照表(負債・純資産(資本)の部)

	第101期	第102期	増 減
流動負債	1,185	1,465	280
支払手形及び買掛金	553	684	131
短期借入金	320	249	71
一年以内償還予定社債	25	0	25
コマーシャル・ペーパー	0	100	100
未払法人税等	47	50	3
前受金	69	208	138
繰延税金負債	0	0	0
賞与引当金	13	15	2
役員賞与引当金	0	3	3
製品保証引当金	23	28	5
その他	134	128	6
固定負債	282	353	71
社債	2	2	0
長期借入金	178	231	54
退職給付引当金	90	103	13
役員退職慰労引当金	9	11	2
その他	3	6	3
負債合計	1,467	1,818	351
少数株主持分	37	0	37
資本金	135	135	0
資本剰余金	147	147	0
利益剰余金	450	519	69
自己株式	0	0	0
その他有価証券評価差額金	6	15	9
為替換算調整勘定	1	11	11
少数株主持分	0	49	49
純資産(資本)合計	739	876	138
負債及び 純資産(資本)合計	2,243	2,694	451

【単位:億円】

受注高の増加に伴い仕入れが増加

借入金、コマーシャル・ペーパーの増加など(計58億増加)

前受金増加

当期純利益を確保した事により、利益剰余金の増加

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

# 連結損益計算書

【単位：億円】

	第101期 (H17/6期)	第102期 (H18/6期)	前期比
売上高	1,968	2,125	156 (+8%)
経常利益	124	148	23 (+19%)
当期純利益	71	81	10 (+13%)

【( )内は増減率、 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

# 財務諸表

# 貸借対照表(資産の部)

	第101期	第102期	増 減
流動資産	896	1,086	190
現金及び預金	87	18	69
受取手形及び売掛金	511	617	107
たな卸資産	230	339	108
繰延税金資産	26	19	7
その他	42	93	51
貸倒引当金	0	0	0
固定資産	581	703	122
有形固定資産	349	384	35
建物及び構築物	124	130	6
機械装置	146	143	3
土地	47	69	22
その他	32	42	10
無形固定資産	27	26	1
投資その他の資産	205	293	88
投資有価証券	24	35	11
関係会社株式	123	169	47
その他	58	88	30
資産合計	1,477	1,790	313

【単位:億円】

売上高増加による

受注高増加による

グループ会社への出資による

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

# 貸借対照表(負債・純資産(資本)の部)

	第101期	第102期	増 減
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	769	955	186
支払手形及び買掛金	439	573	133
短期借入金	73	74	1
一年以内返済予定長期借入金	89	80	9
一年以内償還予定社債	25	0	25
コマーシャル・ペーパー	-	100	100
未払金	44	44	0
未払費用	4	5	1
未払法人税等	32	15	17
前受金	29	18	11
預り金	4	16	12
賞与引当金	5	5	1
役員賞与引当金	0	1	1
製品保証引当金	19	23	4
設備関係支払手形	6	1	5
その他	1	2	1
固定負債	158	240	82
長期借入金	112	188	76
退職給付引当金	39	44	6
その他	7	8	0
負債合計	927	1,195	268
<b>(純資産(資本)の部)</b>			
資本金	135	135	0
資本剰余金	147	147	0
利益剰余金	263	299	36
自己株式	0	0	0
その他有価証券評価差額金	6	14	9
純資産(資本)合計	550	594	44
負債及び 純資産(資本)合計	1,477	1,790	313

【単位:億円】

受注高増加による

借入金、コマーシャル・ペーパー  
の増加(168億円)

当期純利益を確保した事により、  
利益剰余金の増加

【記載された金額は四捨五入しております  
ので各項目の合計値が一致しない場合が  
あります。】

# 損益計算書

【単位: 億円】

	第101期 (H17/6期)	第102期 (H18/6期)	前期比
売上高	1,397	1,474	77 (+5%)
経常利益	77	73	-4 (-5%)
当期純利益	49	50	1 (+1%)

【( )内は増減率、 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

# 決議事項

---

## 第1号議案

### 剰余金の処分の件

## 第1号議案 剰余金の処分の件

### ■第102期配当(H18/6期)

- ▶当期の期末配当につきましては、当期の業績や次期の見通しを考慮するとともに、売上高及び経常利益が過去最高を更新いたしましたこと等を勘案いたしまして下記の通り増配いたします。

【第101期】普通配当 30円  
(連結配当性向 約18%)



【第102期】普通配当 37円  
(連結配当性向 約20%)

# 配当方針について

## ■第103期(H19/6期)以降

連結配当性向を主要な指標と位置付け、連結業績や財務体質の強化などを総合的に勘案のうえ、業績に連動する配当の考え方を取り入れ、連結当期純利益に対する配当性向を20%といたします。

- ▶平成19年6月期は、47円(連結配当性向約20%)の配当を予定。
- ▶今後、自己資本比率が上昇した段階で更に配当性向を引き上げることを検討。

# 決議事項

---

## 第2号議案

### 役員賞与の支給の件

## 第2号議案 役員賞与の支給の件

当期末時点の取締役17名及び監査役5名に対し、当期の業績等を勘案して役員賞与総額10,823万円(取締役分9,483万円、監査役分1,340万円)を支給するものであります。

なお、役員賞与の支給額につきましては、役位ごとの役員報酬額に経常利益率と連動した指数を乗じた金額となっております。

# 決議事項

---

## 第3号議案

### 定款一部変更の件

## 第3号議案 定款一部変更の件

### 1. 変更の理由

- (1)「会社法」及び「会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」が平成18年5月1日に施行されたことにともない、下記のとおり所要の変更を行うものであります。

単元未満株主が行使することができる権利を限定するための規定を新設するものであります(変更案第10条)。

株主総会参考書類等をインターネットを使用する方法で開示することにより、みなし提供できるようにするための規定を新設するものであります(変更案第17条)。

## 第3号議案 定款一部変更の件

### 1. 変更の理由

株主総会において株主が議決権の代理行使を行う際の代理人の人数を従来どおり議決権を有する株主1名とする旨を規定するものであります(変更案第19条)。

取締役会の機動的な運営を図るため、取締役会を開催せずに取締役会の決議があったものとみなすことを可能とする旨を規定するものであります(変更案第28条)。

## 第3号議案 定款一部変更の件

### 1. 変更の理由

社外取締役及び社外監査役がその期待される役割を十分に発揮できるよう、社外取締役及び社外監査役の責任を予め限定する契約を締結することができる旨の規定を新設するものであります(変更案第32条、変更案第41条)。なお、変更案第32条(社外取締役との責任限定契約)の新設につきましては、監査役全員の同意を得ております。

## 第3号議案 定款一部変更の件

### 1. 変更の理由

- (2) 取締役会に関する事項は、取締役会規則によることを規定するものであります(変更案28条)。
- (3) 監査役会に関する事項は、監査役会規則によることを規定するものであります(変更案39条)。
- (4) その他、必要な規定の加除、用語の修正、表現の統一、条文の加除にともなう条数の変更等所要の変更を行うものであります。

# 決議事項

---

## 第4号議案

### 取締役13名選任の件

## 第4号議案 取締役13名選任の件

### [取締役候補者(13名)]

中村 久三	末代 政輔
諏訪 秀則	小田木 秀幸
山川 洋幸	平野 裕之
桜田 勇蔵	山元 正年
常見 佳弘	宇治原 潔
砂賀 芳雄	(社外取締役)
福田 隆	
五戸 成史	

### [非改選(5名)]

藤山 潤樹
加藤 丈夫
佐藤 孔史
本吉 光
中野 佳信
(社外取締役)

# 決議事項

---

## 第5号議案

## 会計監査人2名選任の件

## 第5号議案 会計監査人2名選任の件

当社の会計監査人である中央青山監査法人は、金融庁より6月決算会社については平成18年7月1日から平成18年7月31日までの間、証券取引法に基づく監査業務、会社法に基づく監査業務等の停止処分を受けたため、会社法第346条第4項及び第6項の規定に基づき平成18年7月1日開催の監査役会決議により五十鈴監査法人を、また、平成18年8月1日開催の監査役会において中央青山監査法人をそれぞれ一時会計監査人の職務を行うべき者に選任し、現在に至っております。

# 第5号議案 会計監査人2名選任の件

## 会計監査人候補者

1	名称	あらた監査法人(PwCメンバー・ファーム)	
	沿革	平成18年6月 設立	
	概要	構成人員	
		社員数 公認会計士	94名
		職員数 公認会計士・会計士補	468名
2	概要	その他	369名
		合計	931名
2	名称	五十鈴監査法人(一時会計監査人からの継続)	
	沿革	昭和58年5月 設立	
	概要	構成人員	
		社員数 公認会計士	9名
		職員数 公認会計士・会計士補	15名
2	概要	その他	4名
		合計	28名

# 決議事項

---

## 第6号議案

### 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

## 第6号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会終結の時をもって任期満了により取締役を退任されます小日向久治、中村静雄、木村光利及び取締役を辞任されます天野 繁、石崎淳一の各氏に対し、その在任中の功労に報いるため、当社所定の規程に基づき、役位ごとの在任期間に応じた金額による退職慰労金を贈呈いたしたいと存じます。

なお、その具体的な金額、贈呈の時期、方法等は、取締役会で決定いたしますので、ご一任願いたいと存じます。

# 決議事項

---

## 第7号議案

退職慰労金制度の廃止にともなう  
取締役及び監査役に対する退職慰労金  
打ち切り支給の件

**ともなう取締役及び監査役に対する退職慰労金打ち切り支給の件**

当社は、本総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止することといたしました。

取締役12氏ならびに監査役5氏に対し、本総会終結の時までの在任期間をもとに、当社所定の規程に基づき、役位ごとの在任期間に応じた金額による退職慰労金を打ち切り支給することとしたいと存じます。

その具体的な金額、方法等は、取締役につきましては取締役会に、監査役につきましては監査役の協議にご一任願いたいと存じます。

なお、贈呈の時期は、各取締役及び各監査役の退任の時としたいと存じます。対象となる取締役及び監査役は次のとおりであります。

ともなう取締役及び監査役に対する退職慰労金打ち切り支給の件

対象となる取締役及び監査役(17名)

中村 久三

諏訪 秀則

山川 洋幸

桜田 勇蔵

常見 佳弘

砂賀 芳雄

福田 隆

藤山 潤樹

加藤 丈夫

佐藤 孔史

本吉 光

中野 佳信

菊城 宏

川島 和也

佐藤 恒雄

長澤 正人

原 稔

# 決議事項

---

## 第8号議案

### 取締役及び監査役の報酬額改訂の件

## 第8号議案 取締役及び監査役の報酬額改訂の件

当社の取締役及び監査役の報酬額は、平成4年9月28日開催の第88回定時株主総会において、取締役の報酬額を年額28,800万円以内、監査役の報酬額を年額4,200万円以内とご決議いただき今日に至っておりますが、取締役及び監査役に対する退職慰労金制度の廃止ならびに会社法の施行等により賞与を利益処分としての支給から今後は報酬額内での支給とすること等を考慮し、取締役の報酬額を年額80,000万円以内、監査役の報酬額を年額10,000万円以内と改訂させていただきたいと存じます。

取締役及び監査役の月額報酬額及び賞与につきましては、新たに規程を作成し、それに基づき支給することといたします。

なお、規程につきましては、本社及び各支店において所定の手続きをおとりいただくことにより閲覧することが可能となっております。

# 株主懇談会

## ◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ (FPD)・半導体・電子部品業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品の市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

## ◆ 本資料における表示方法について

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

- 市場環境
- 2007年6月期連結業績予想
- 中長期の事業戦略

# 経営環境

## ■ ポジティブ要因

- ▶ FPD、フラッシュメモリを中心にデジタル家電分野において世界的な規模で大型の設備投資が計画されている
- ▶ 化合物半導体、MEMSやエネルギー・環境関連のハイブリッドカー、太陽電池などの「ポストFPD分野」も投資の拡大が開始
- ▶ 中国の製造業が順調に拡大。世界経済に重大な影響を及ぼす
- ▶ ディスプレイの基板大型化、半導体の微細化、自動車の電気電子技術の応用等急激な技術革新が行われる

**アルバックを取り巻く経営環境は堅調に推移**

# 経営環境

## ■ ネガティブ要因

- ▶ 韓国、台湾、中国のデバイスメーカーや装置メーカーがコスト競争力に加え技術競争力をつけ、自国産業育成政策ともあいまってシェアを大幅に拡大しつつある
- ▶ 構造的デフレによる市販価格の下落が長期にわたり進行
- ▶ 撤退や企業買収などが進行し、生き残りをかけた企業間競争がさらに激しくなった
- ▶ 一部液晶メーカーで生産調整や設備投資の見直しの動きがあり、予断を許さない状況

# 半導体および液晶パネル製造装置予測

製造装置市場

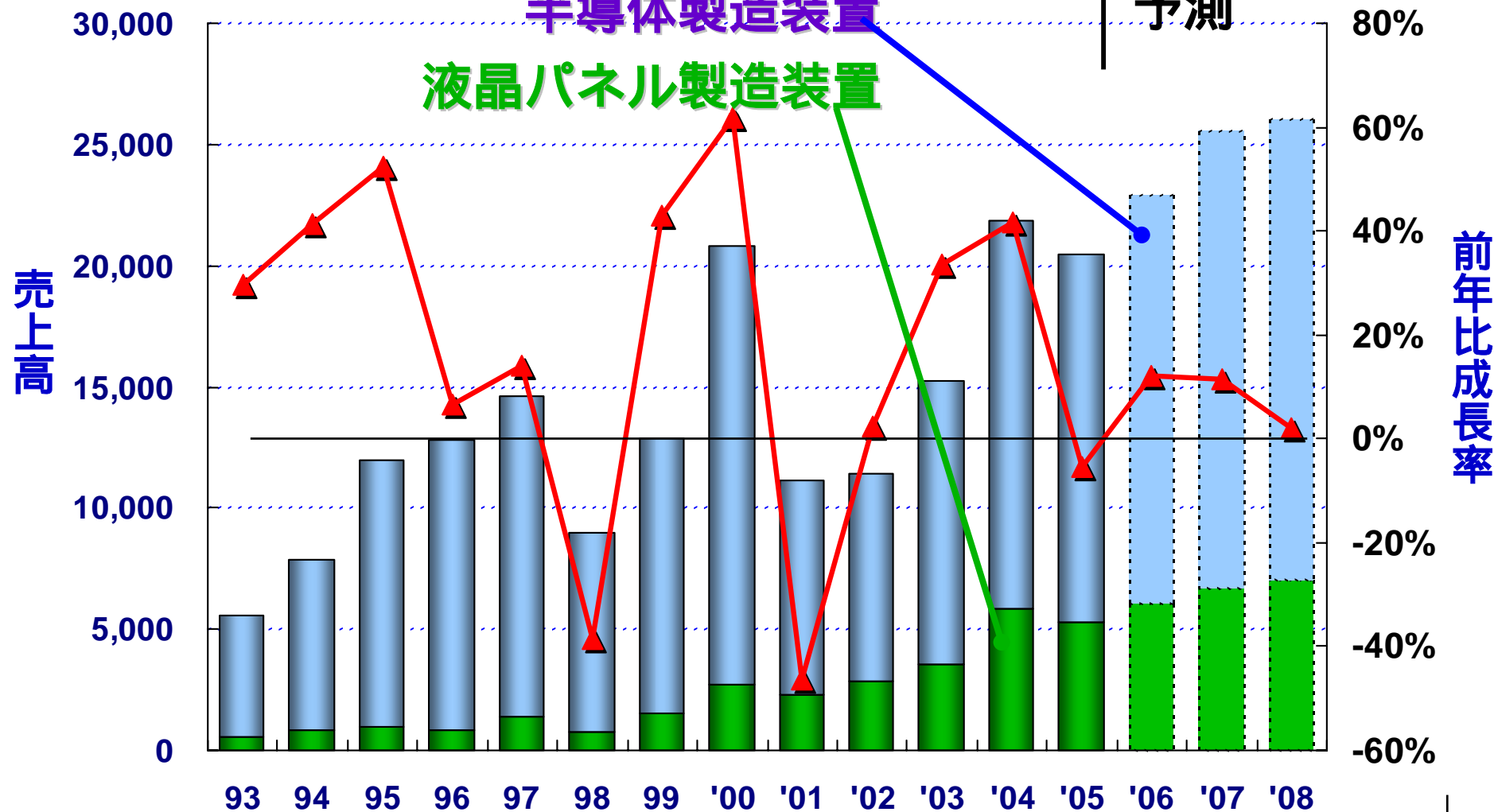
【単位:億円】

< 日本製装置売上高予測 >

半導体製造装置

液晶パネル製造装置

予測



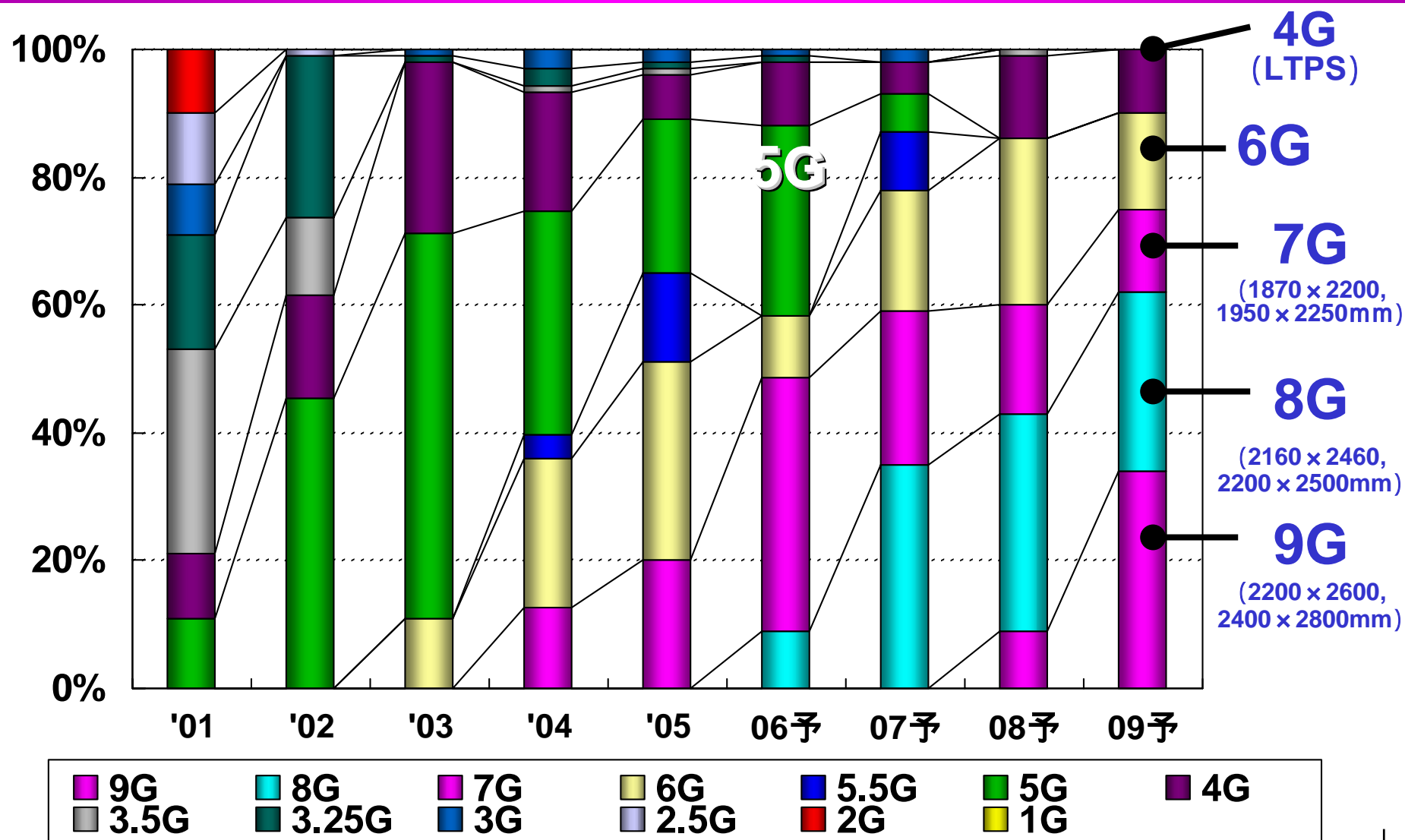
(出所:2006年6月 SEAJ)

(売上高: 日系企業(海外拠点含む)の国内および海外への販売高)

83

# 液晶ディスプレイ世代別投資

既存分野

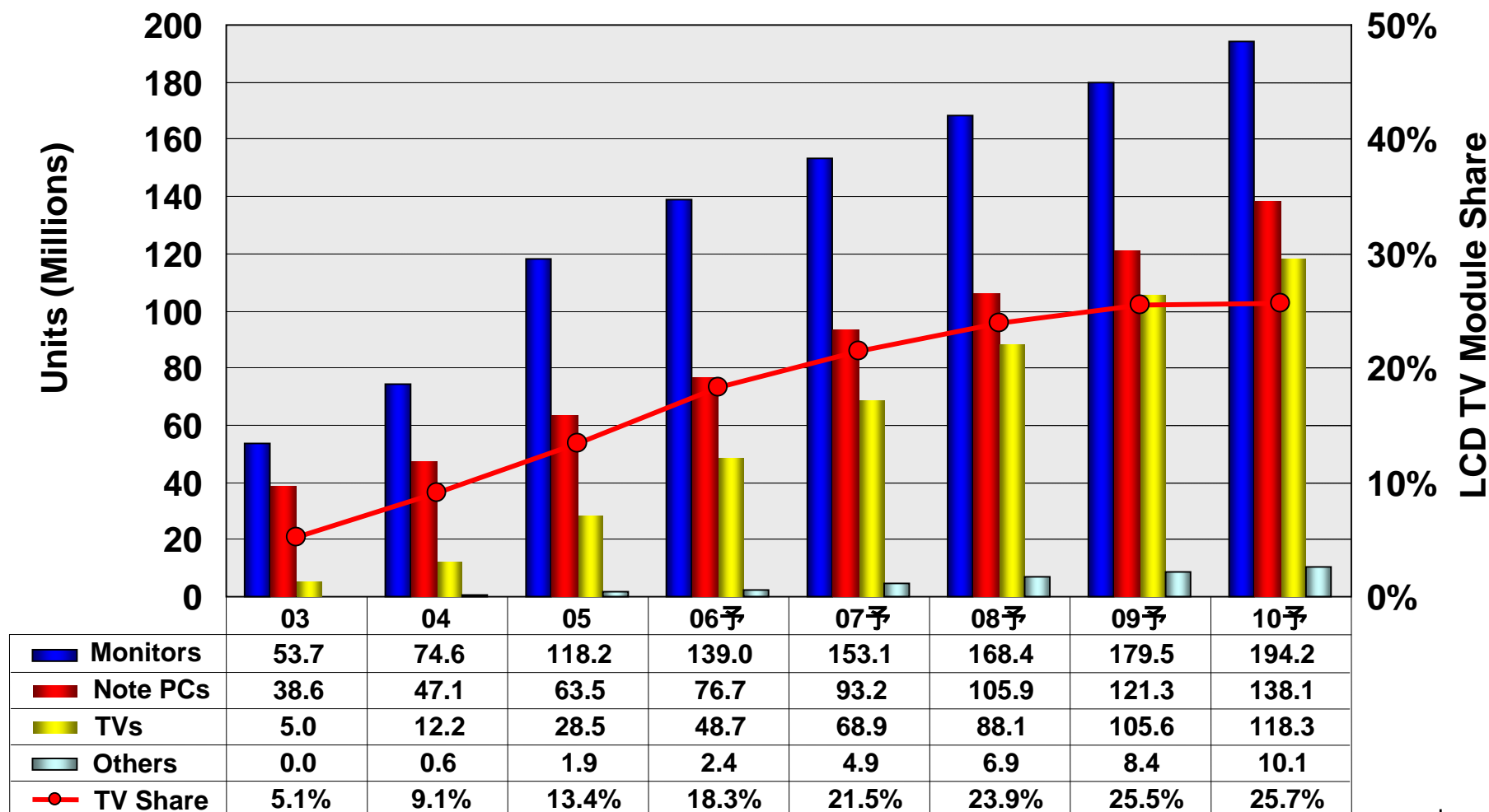


(出所: 2006年7月  
The 11<sup>th</sup> DisplaySearch Japan Forum )

## 大型TFT LCD用途別市場規模(台数)

市場動向

- 台数ベースではTV用が約4分の1のシェアを占める



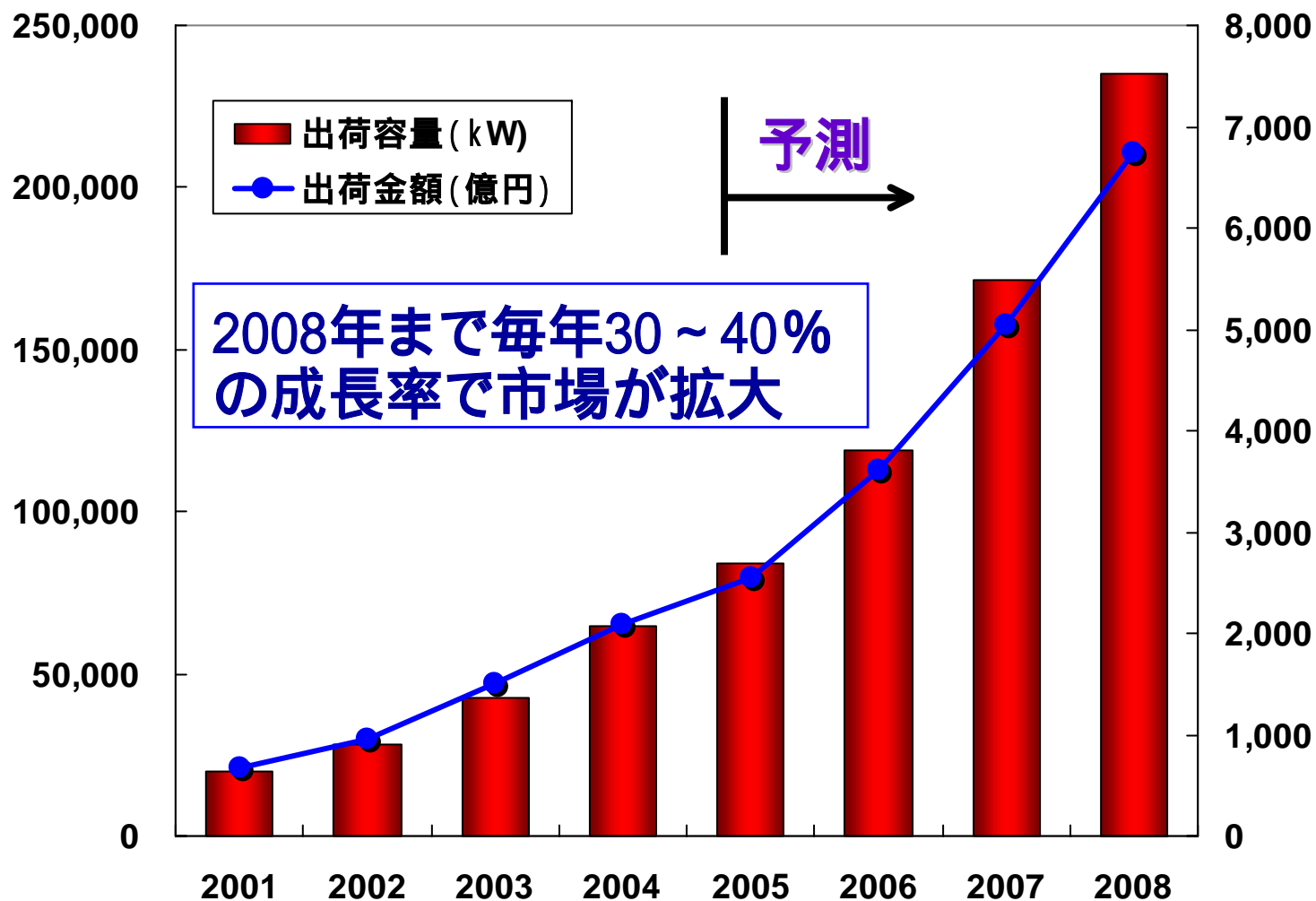
(出所:2006年7月

The 11<sup>th</sup> DisplaySearch Japan Forum )

# 太陽電池の市場推移

【単位：kW】

【単位：億円】



(出所：2005年8月 矢野経済研究所)

■市場環境

■2007年6月期連結業績予想

■中長期の事業戦略

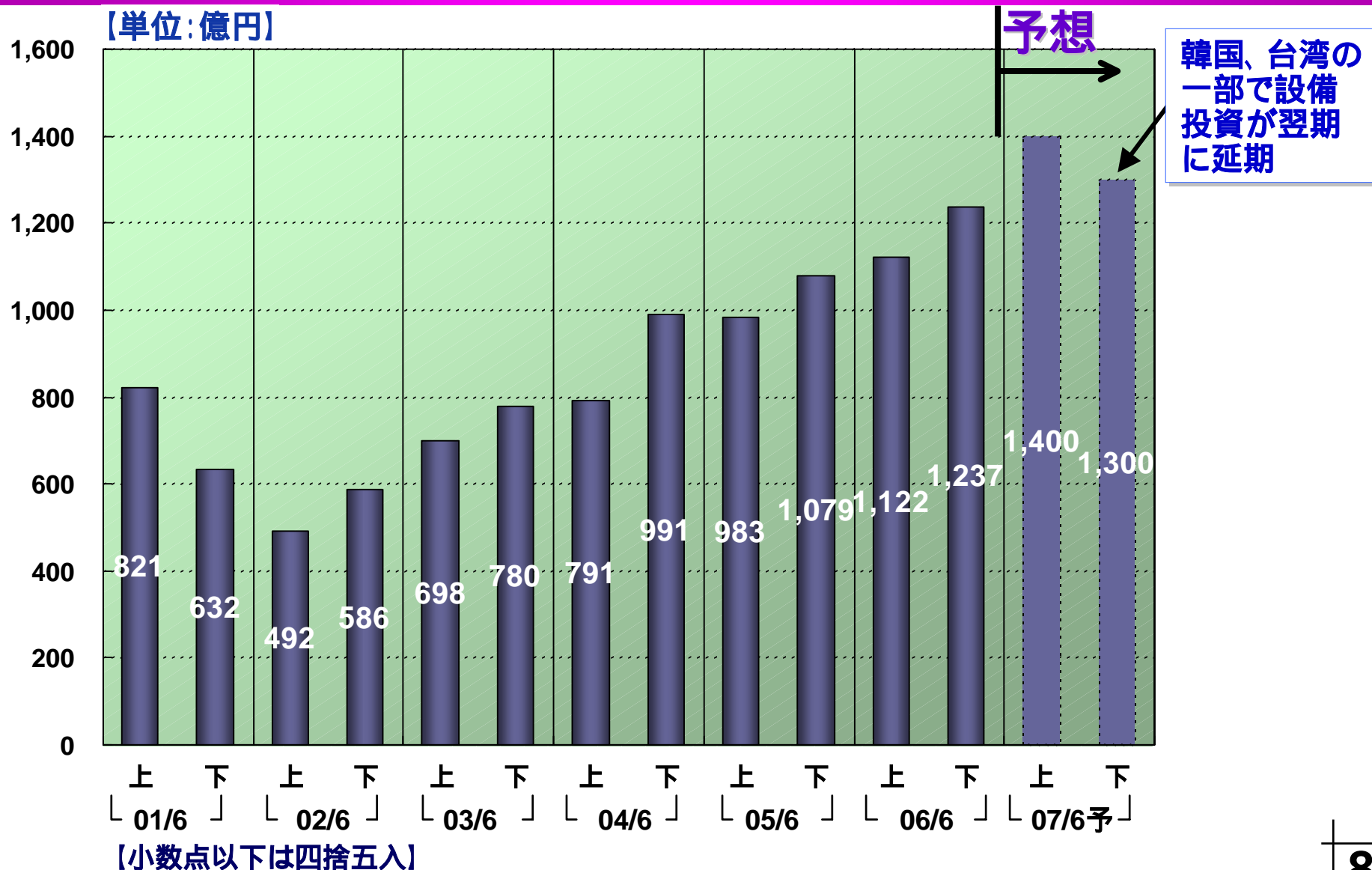
# 07/6期業績予想

【単位:億円】

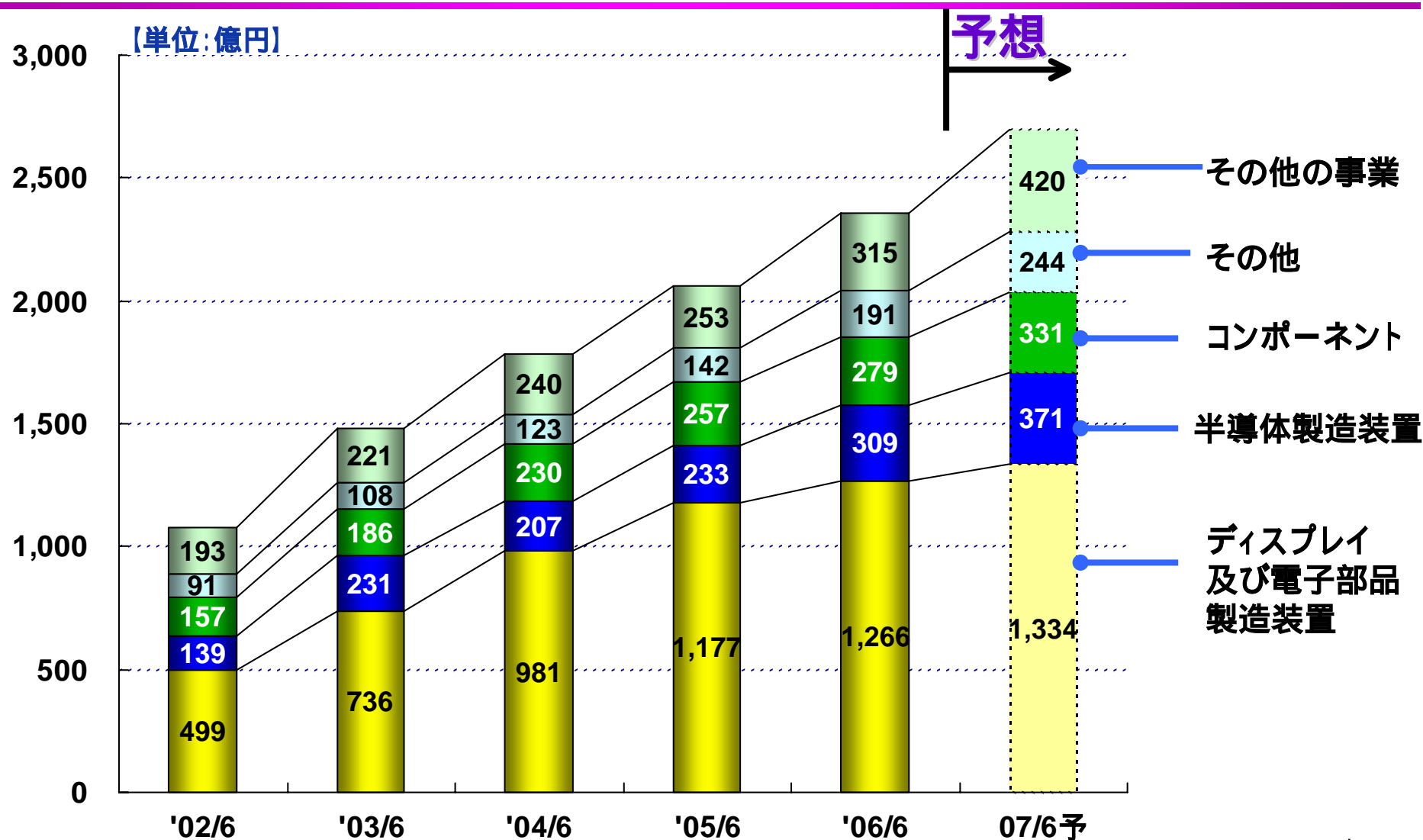
	04/6期	05/6期	06/6期	06/12 (中間) 予	07/6期予
受注高	1,782 (+ 21%)	2,062 (+16%)	2,360 (+14%)	1,400 (+25%)	2,700 (+14%)
売上高	1,579 (+24%)	1,968 (+25%)	2,125 (+8%)	1,270 (+33%)	2,510 (+18%)
営業利益	85 (+81%)	153 (+81%)	148 (-3%)	89 (+182%)	200 (+35%)
経常利益	73 (+103%)	124 (+71%)	148 (+19%)	84 (+158%)	185 (+25%)
当期純利益	40 (+135%)	71 (+81%)	81 (+13%)	43 (+186%)	101 (+25%)

【 ( )内は増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

# 受注高推移・予想

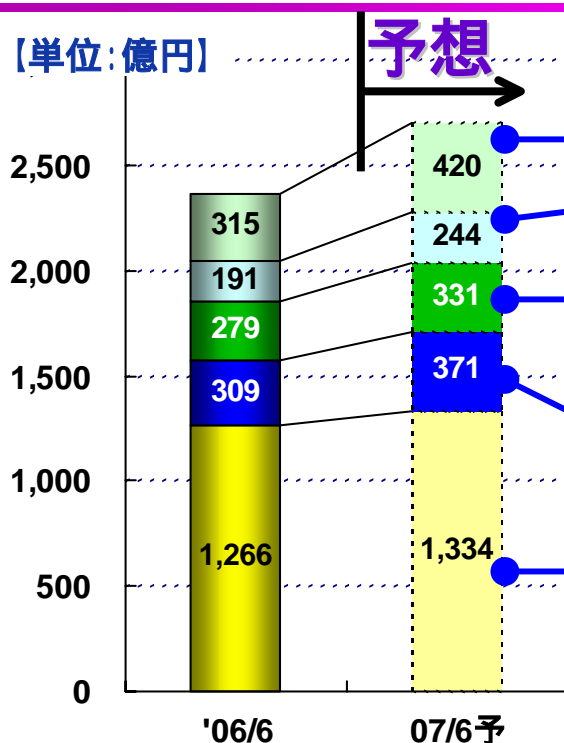


# 品目別受注高実績・予想



【小数点以下は四捨五入】

# 品目別受注高の実績・予想



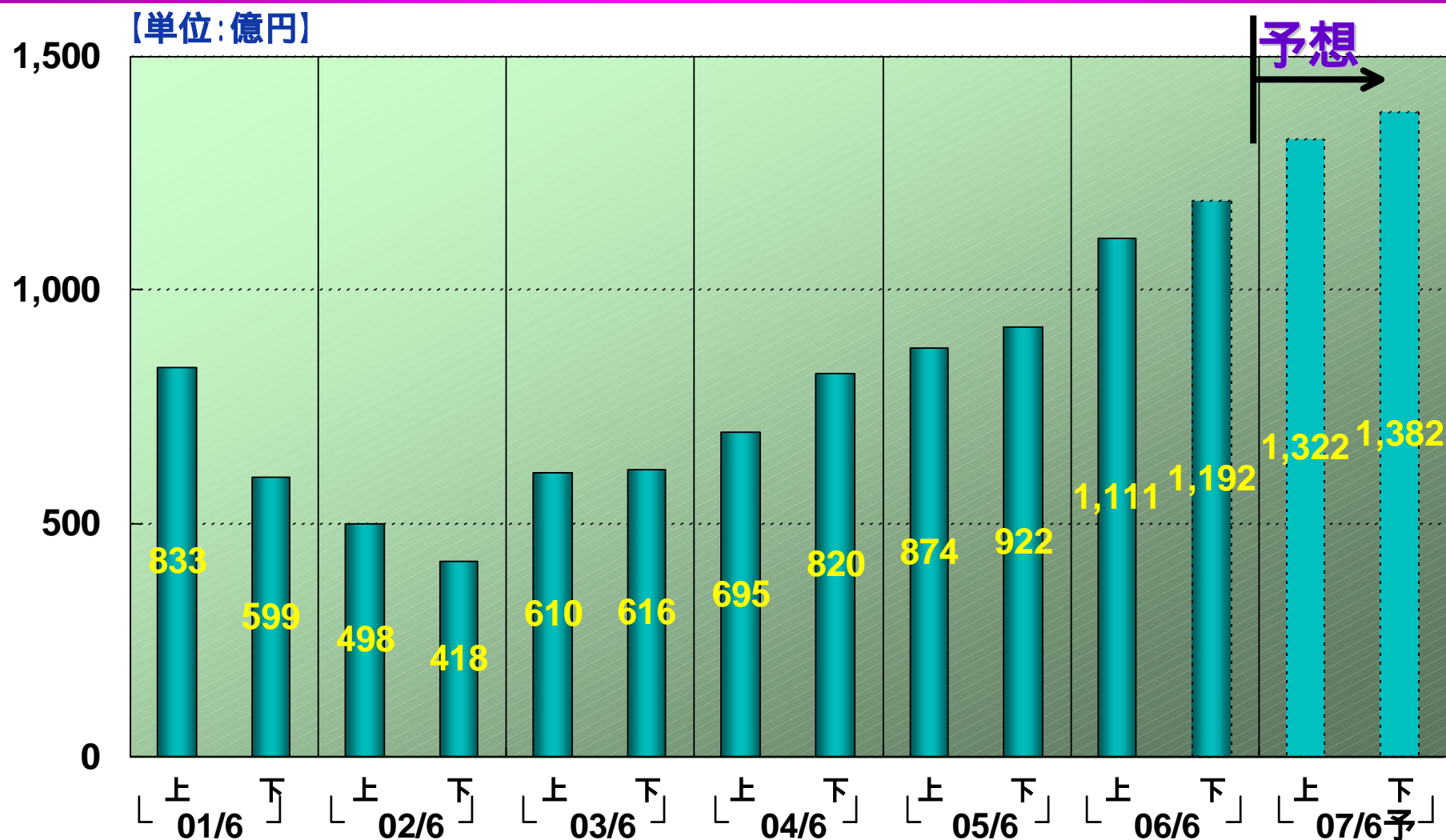
品 目	背 景(前年同期比較)
その他の事業	FPD、半導体向けターゲット材料の増加を見込む
その他	エネルギー・環境関連で自動車関連の増加を見込む
コンポーネント	・FPD製造装置用大型ドライポンプ、測定器やエネルギー ・環境関連の新規市場など幅広い産業分野での需要増見込む
半導体製造装置	・フラッシュメモリ、パワーICで引き続き需要増を見込む
ディスプレイ及び電子部品製造装置	・韓国、台湾で大型基板の設備投資計画に一部延期。 FPD全体では、投資意欲は引き続き旺盛。 ・次世代ディスプレイや太陽電池の引合い増。

【単位:億円】

品 目		06/6		07/6予		
		受注高	構成比	受注高	構成比	増減率
真空関連事業	ディスプレイ及び電子部品製造装置	1,266	54%	1,334	49%	5%
	半導体製造装置	309	13%	371	14%	20%
	コンポーネント	279	12%	331	12%	19%
	その他	191	8%	244	9%	28%
その他の事業		315	13%	420	16%	33%
合計		2,360	-	2,700	-	14%

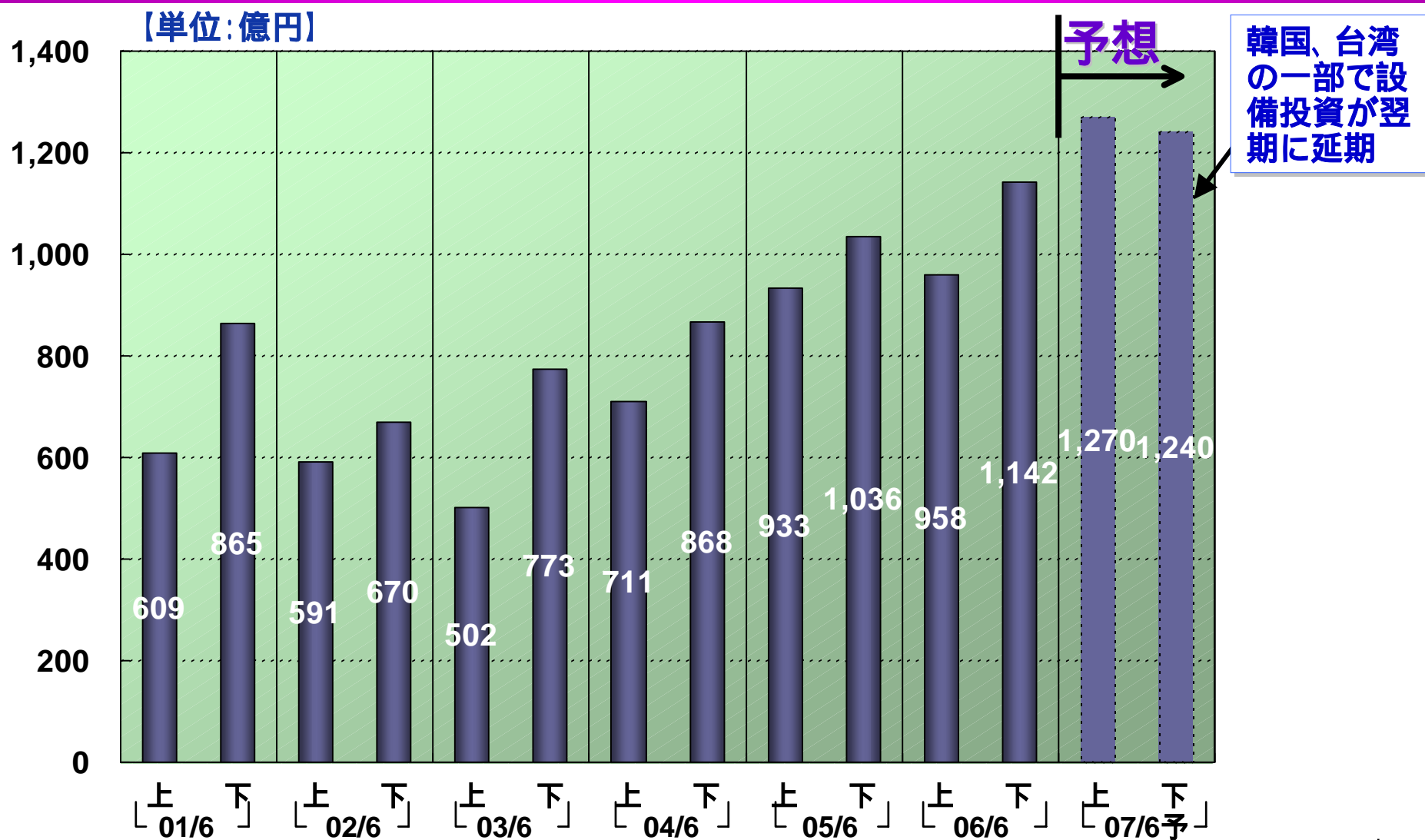
注)  
記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。

# 受注残高推移・予想



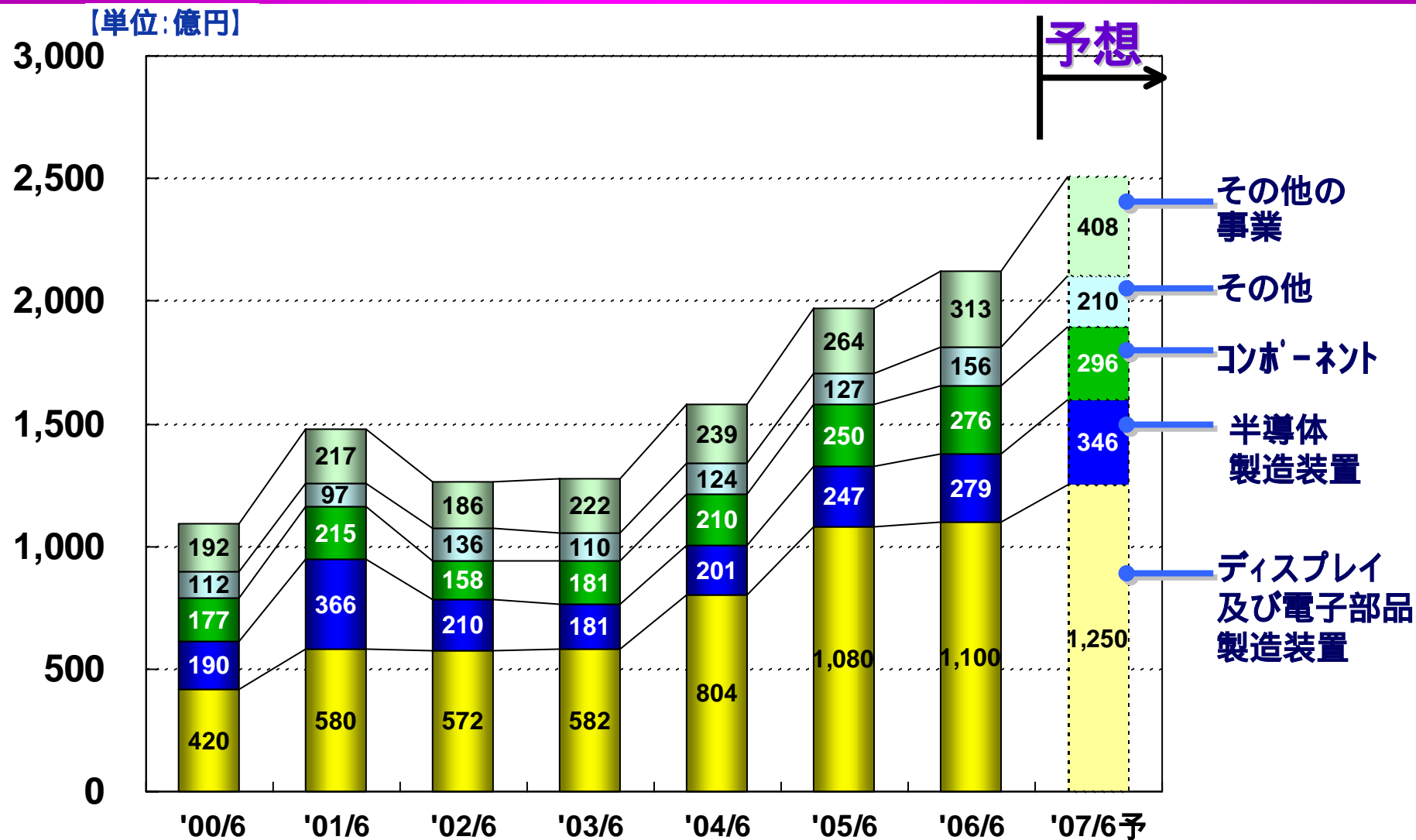
【小数点以下は四捨五入】

# 売上高推移・予想



【小数点以下は四捨五入】

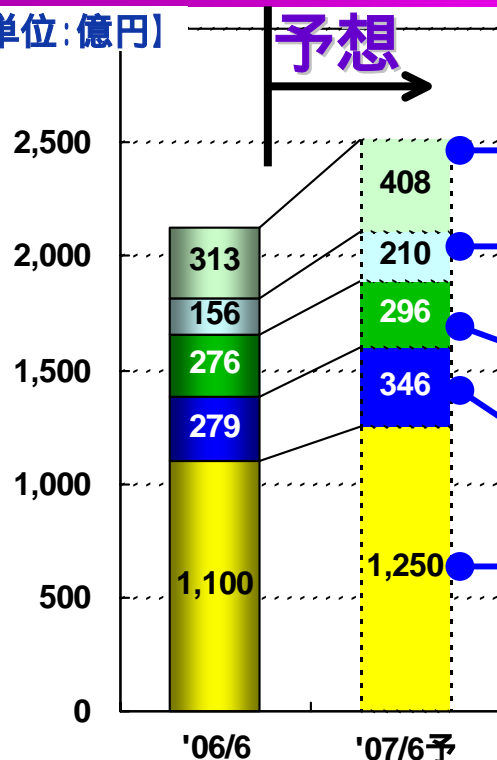
# 品目別売上高実績・予想



【小数点以下は四捨五入】

# 品目別売上高の実績・予想

【単位:億円】



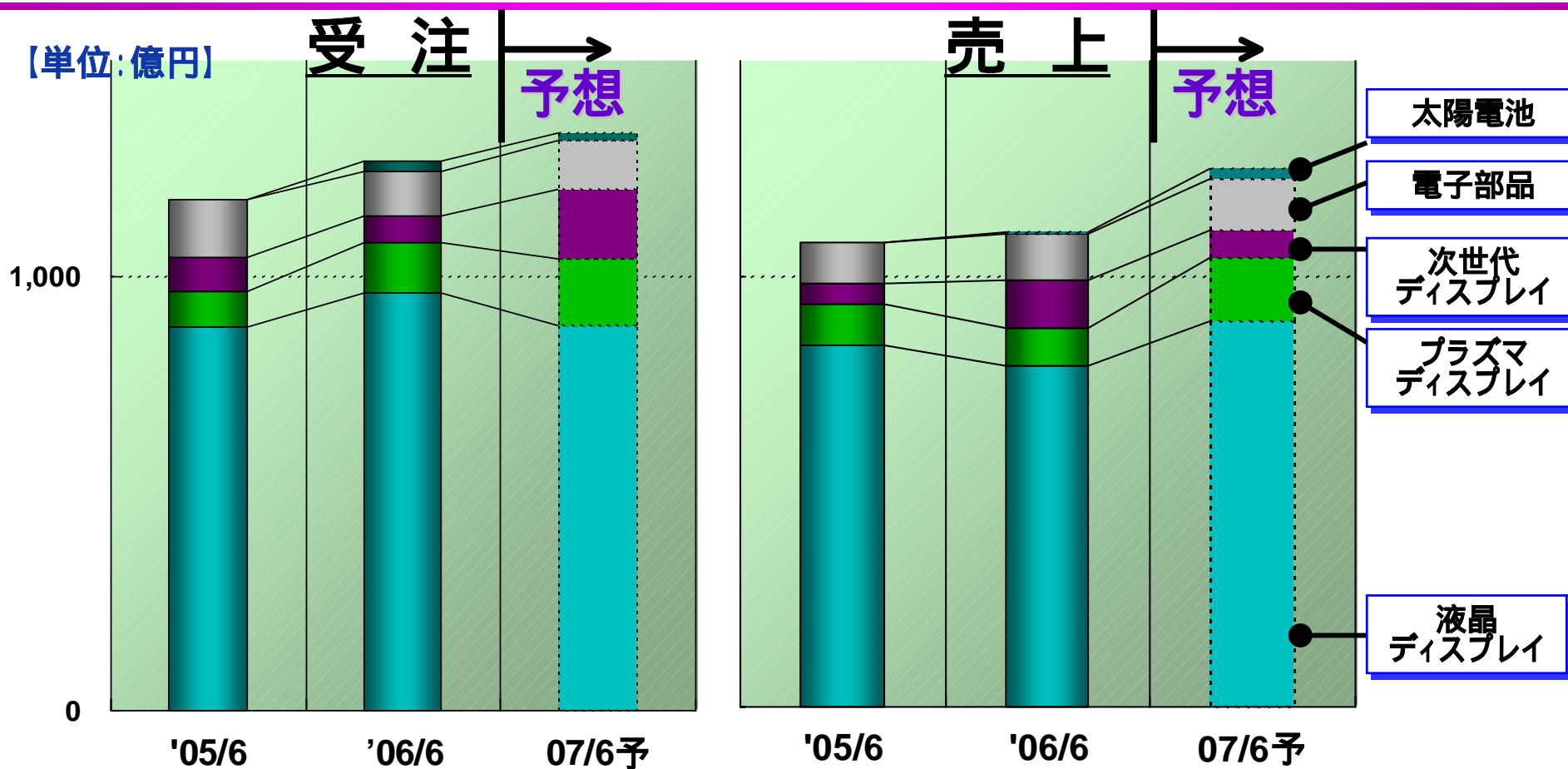
品 目	主な動向
その他の事業	・FPD、半導体向けターゲット材の需要増を見込む
その他	・エネルギー・環境関連のハイブリッドカーなどの設備投資を見込む。熱処理炉、真空蒸着装置が増加
コンポーネント	・FPD製造装置需要が見込まれ、大型ドライポンプ、測定器など続伸。 ・エネルギー・環境関連の新規市場の需要増見込む。
半導体製造装置	・フラッシュメモリ、パワーICや化合物半導体の需要増で設備投資が引き続き堅調。スパッタなど増加
ディスプレイ及び電子部品製造装置	・韓国、台湾の一部で、設備投資計画の延期があるが、大画面テレビの需要増により設備投資意欲旺盛。 ・次世代ディスプレイや太陽電池の投資が開始

【単位:億円】

品 目		06/6		07/6予		
		売上高	構成比	売上高	構成比	増減率
真空関連事業	ディスプレイ及び電子部品製造装置	1,100	52%	1,250	50%	14%
	半導体製造装置	279	13%	346	14%	24%
	コンポーネント	276	13%	296	12%	7%
	その他	156	7%	210	8%	34%
	その他の事業	313	15%	408	16%	30%
合計		2,125	-	2,510	-	18%

注)  
記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。

# ディスプレイ及び電子部品製造装置の推移・予想

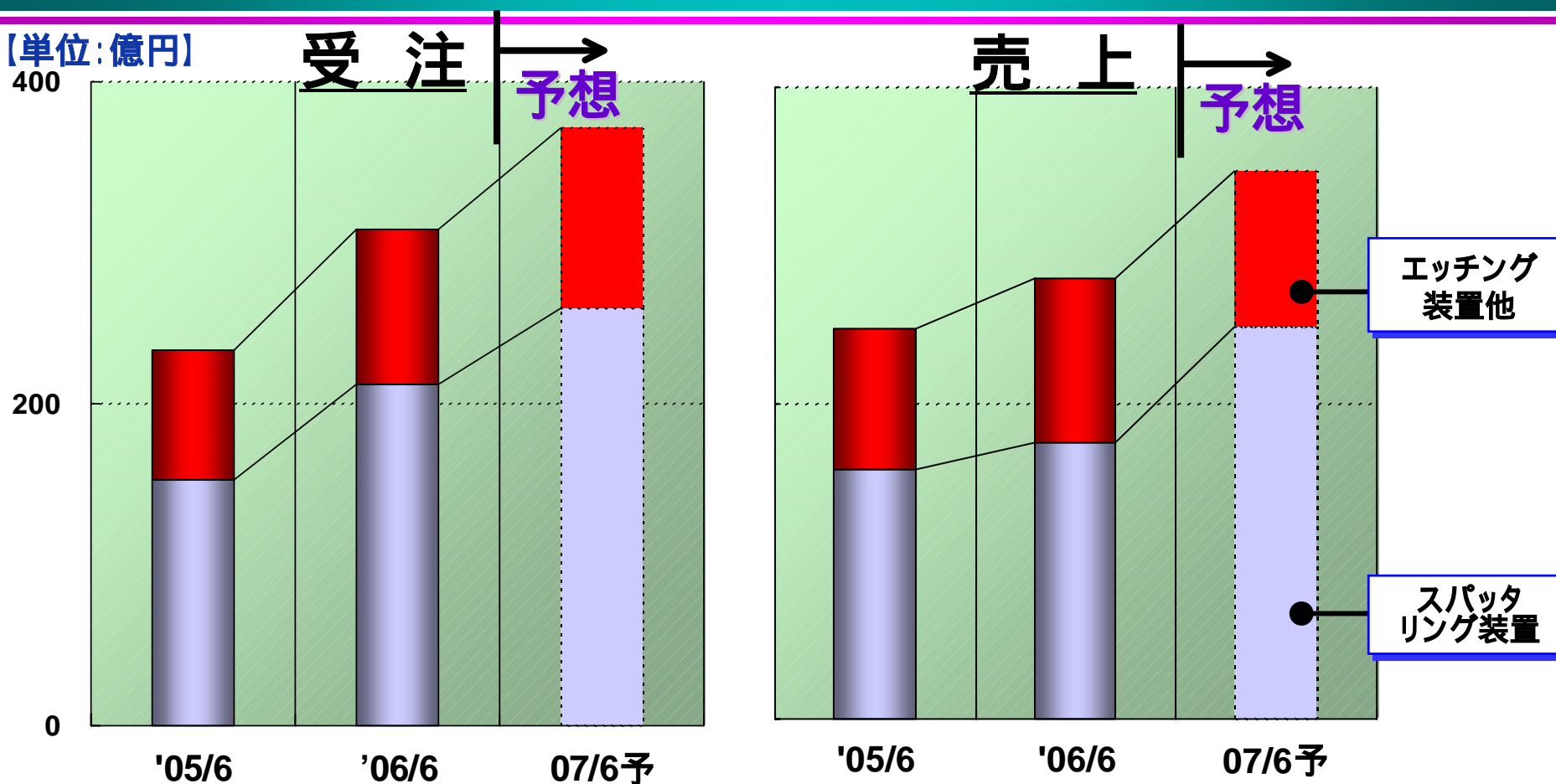


## 足元の受注環境

◆韓国、台湾の一部ユーザーで大型基板(7.5Gなど)の設備投資が延期しているものの、総じて、大画面テレビの設備投資は堅調

# 半導体製造装置の推移・予想

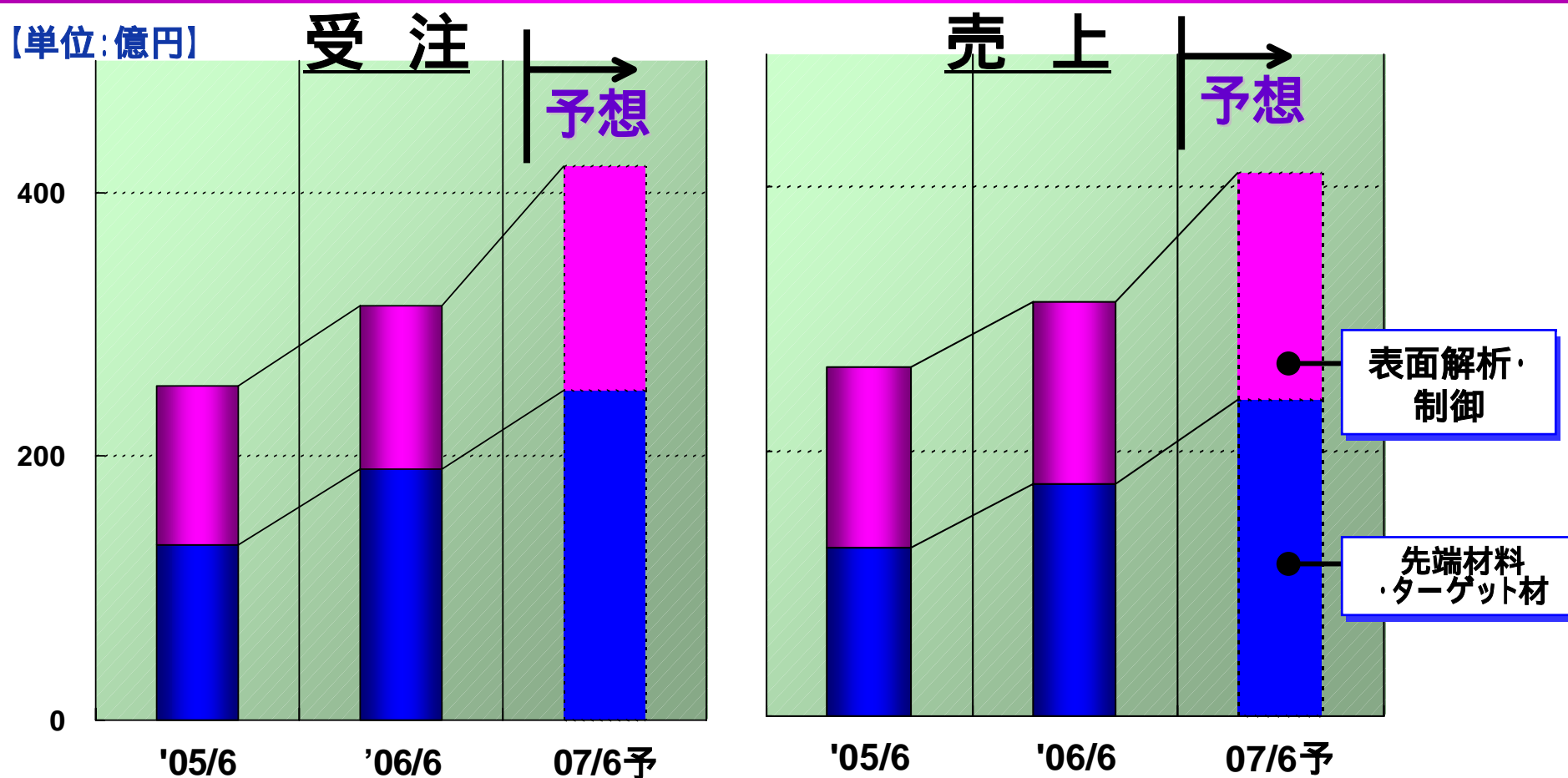
【単位：億円】



## 足元の受注環境

- ◆フラッシュメモリ、DRAM向けでスパッタ、自然酸化膜除去装置引合い堅調
- ◆化合物半導体、パワーデバイスなど引合い、受注堅調

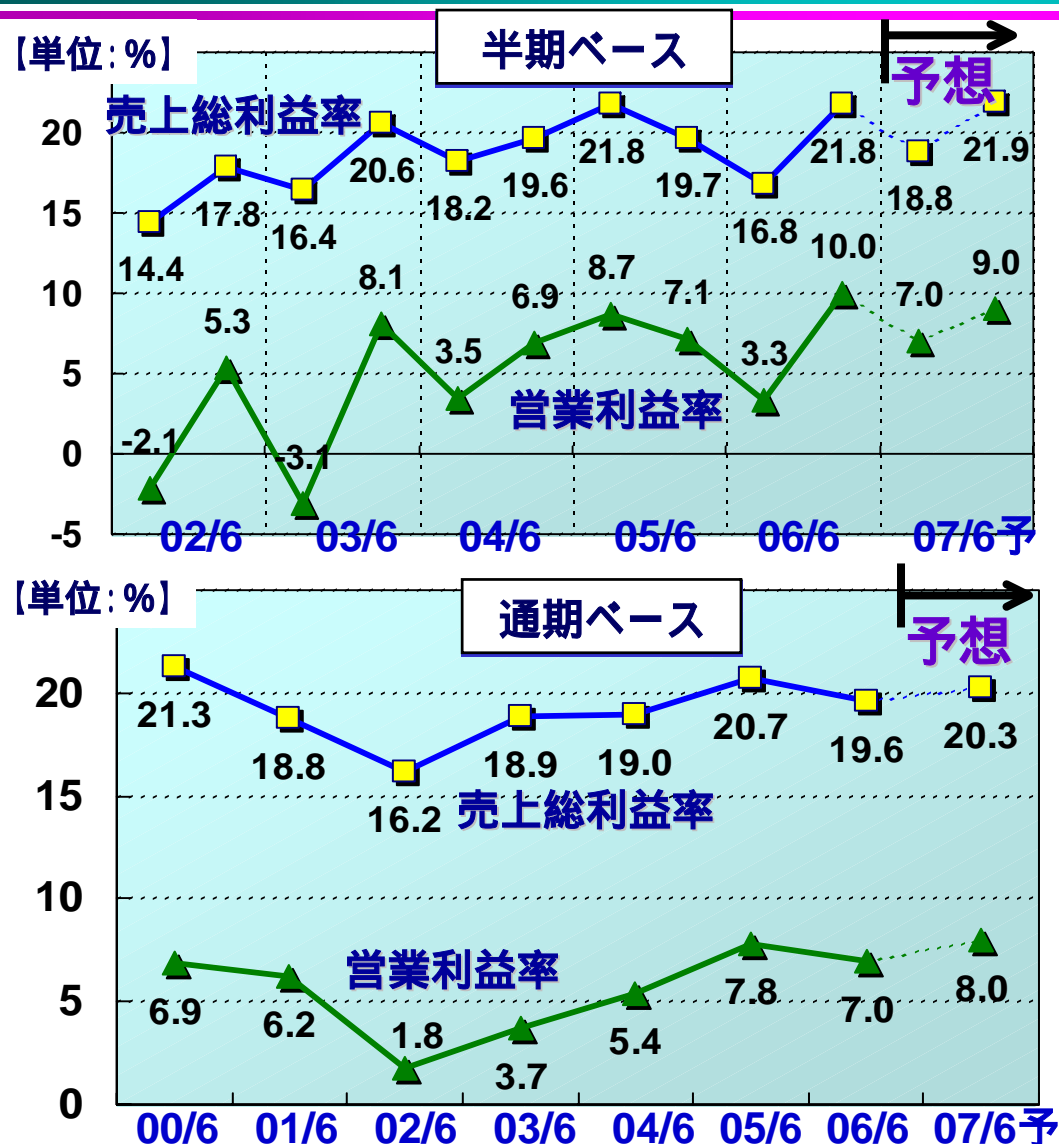
# その他の事業の推移・予想



## 足元の受注環境

- ◆ FPD用スパッタリングターゲット材は、メタルを中心に受注、売上増加
- ◆ 制御システムは自動車産業向けで堅調、表面解析はナノテク関連

# 利益率の推移・予想



## 07/6期予想

### 上期

- ・7G以降縦型スパッタの立ち上げ時追加費用を見込む
- ・5～6G、半導体製造装置、材料で利益下支え

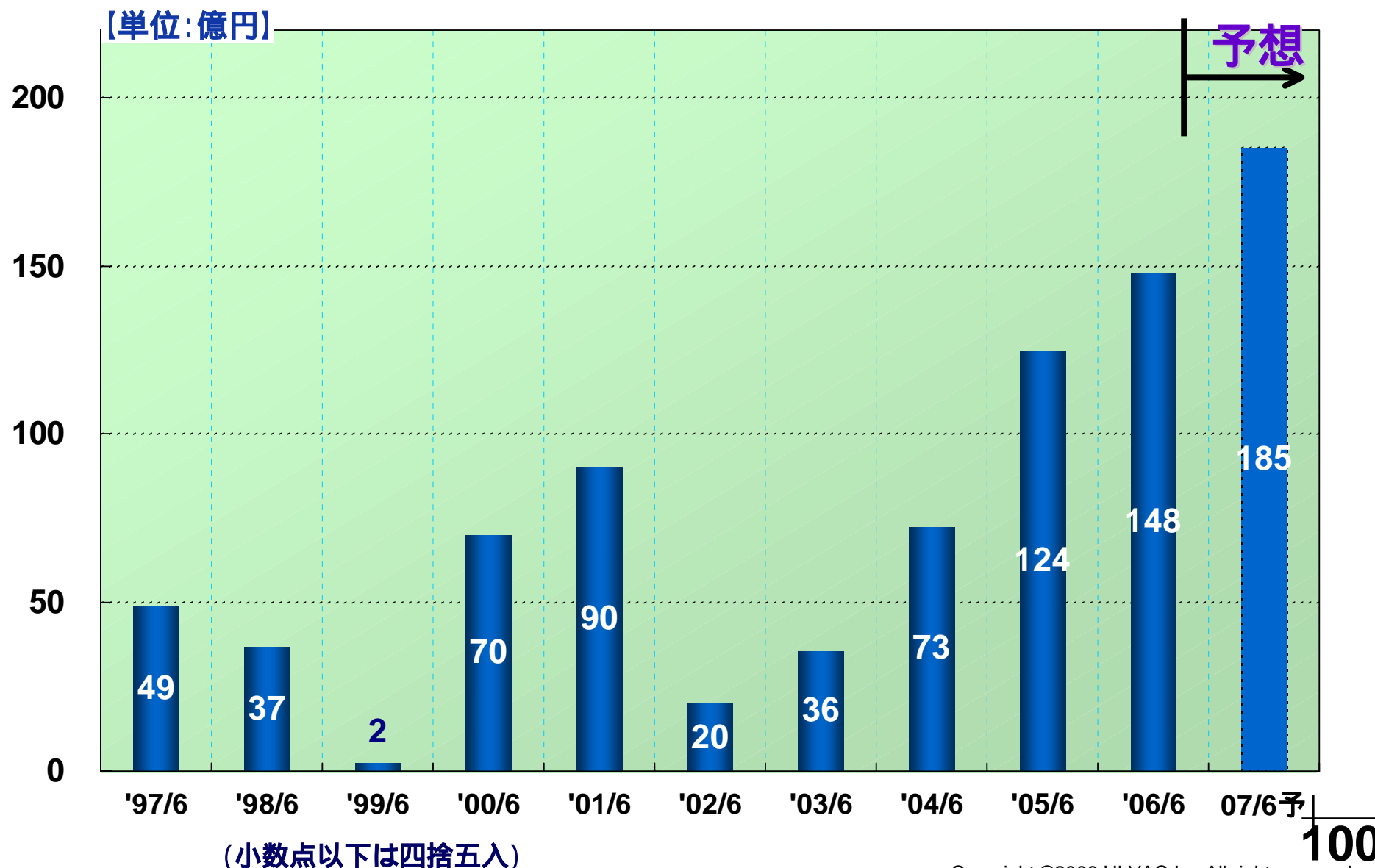
### 下期

- ・6Gの収益性向上
- ・7G以降縦型スパッタ装置の収益性が回復
- ・大型液晶ラインの本格稼動で材料関連の売上増

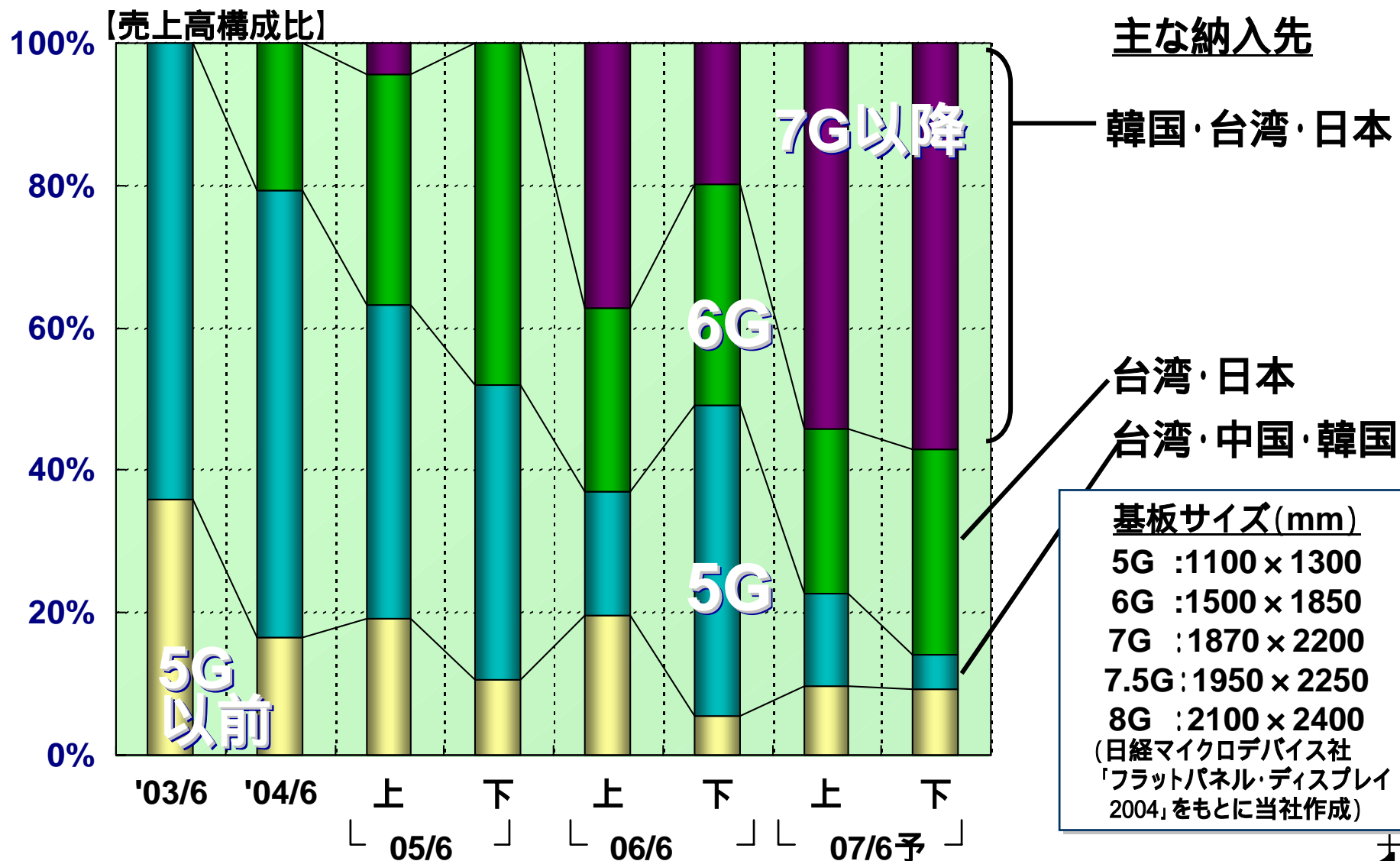
### 通期

- ・標準化、効率化、先行調達購買など攻めの施策により調達コスト低減

# 経常利益の推移・予想

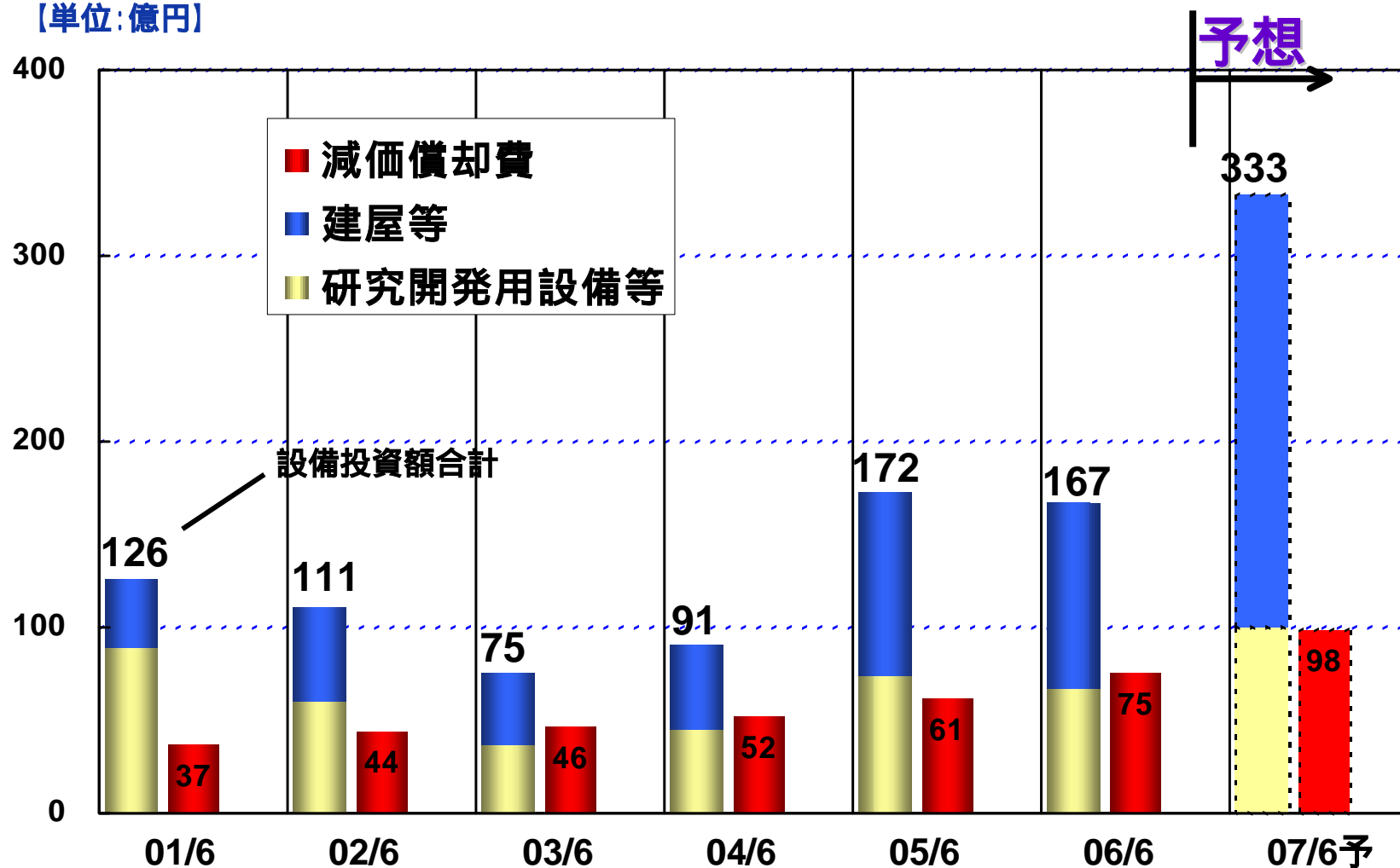


# 液晶ディスプレイ製造装置の世代の推移・予想



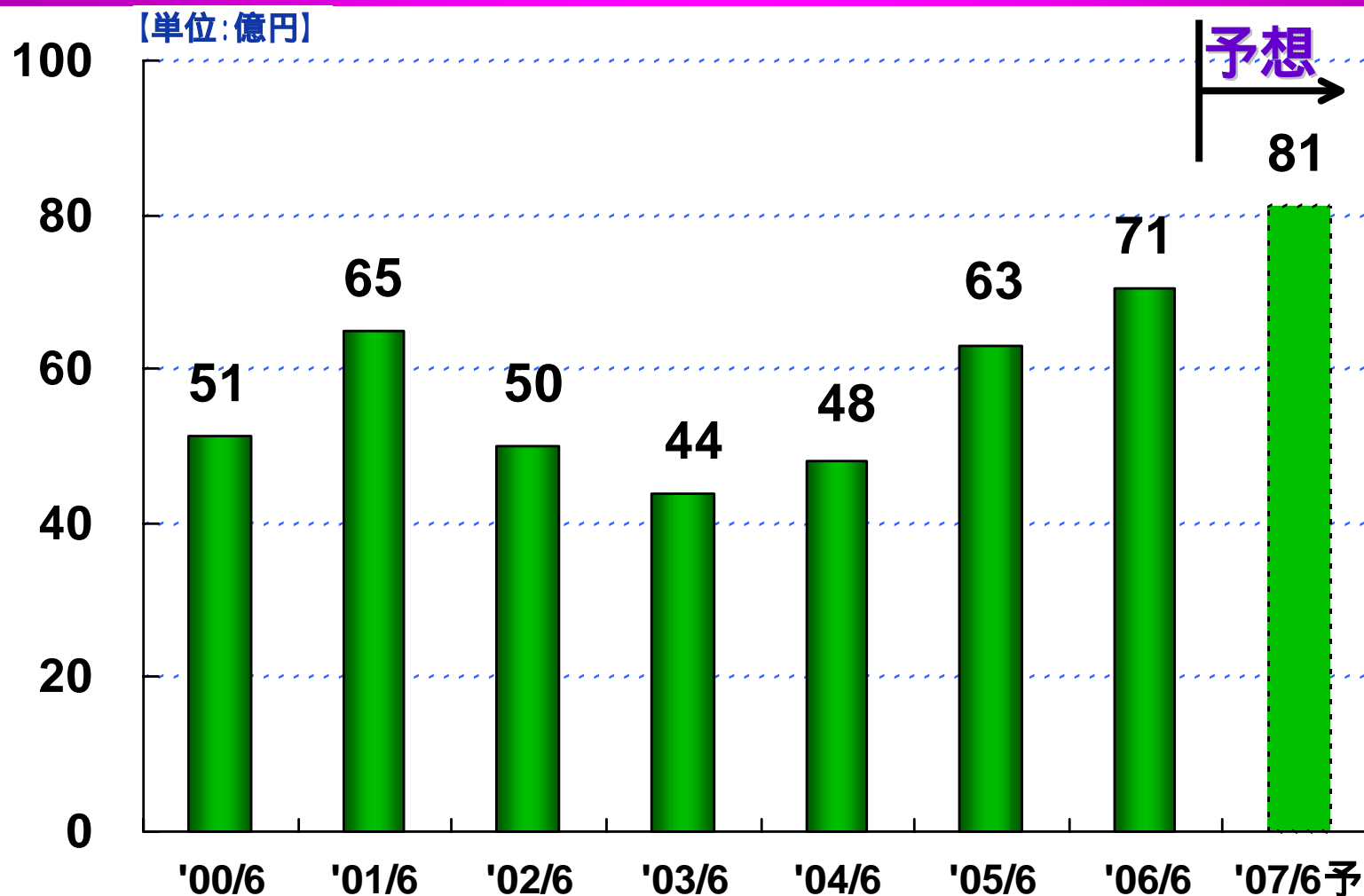
# 設備投資、減価償却費の推移・予想

【単位:億円】



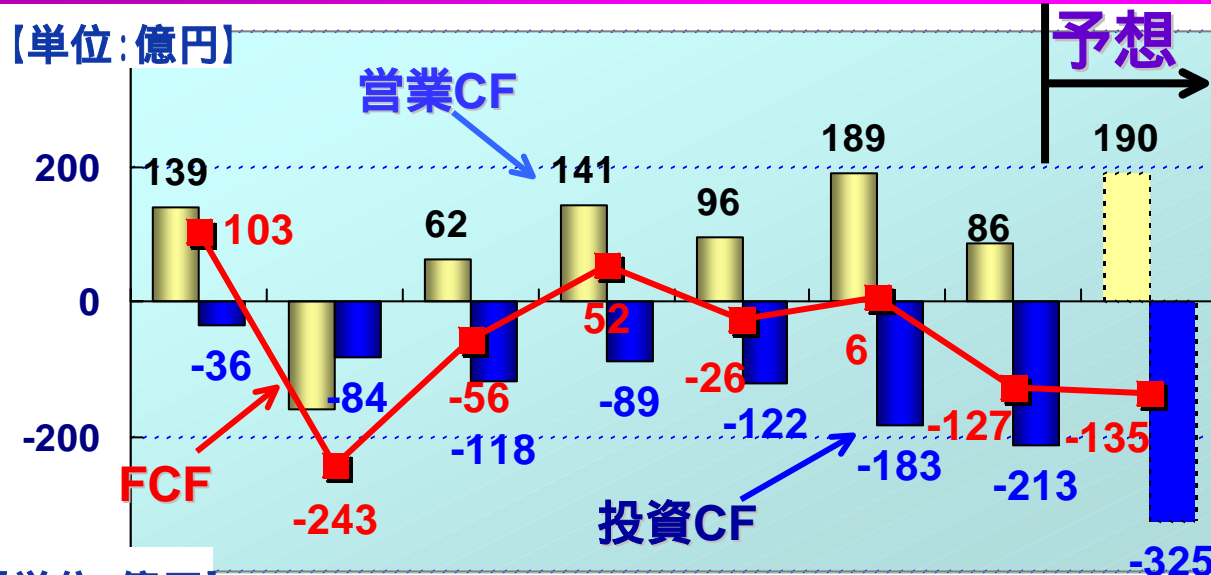
【小数点以下は四捨五入】

# 研究開発費の推移・予想



【小数点以下は四捨五入】

# キャッシュ・フローと有利子負債の状況・予想



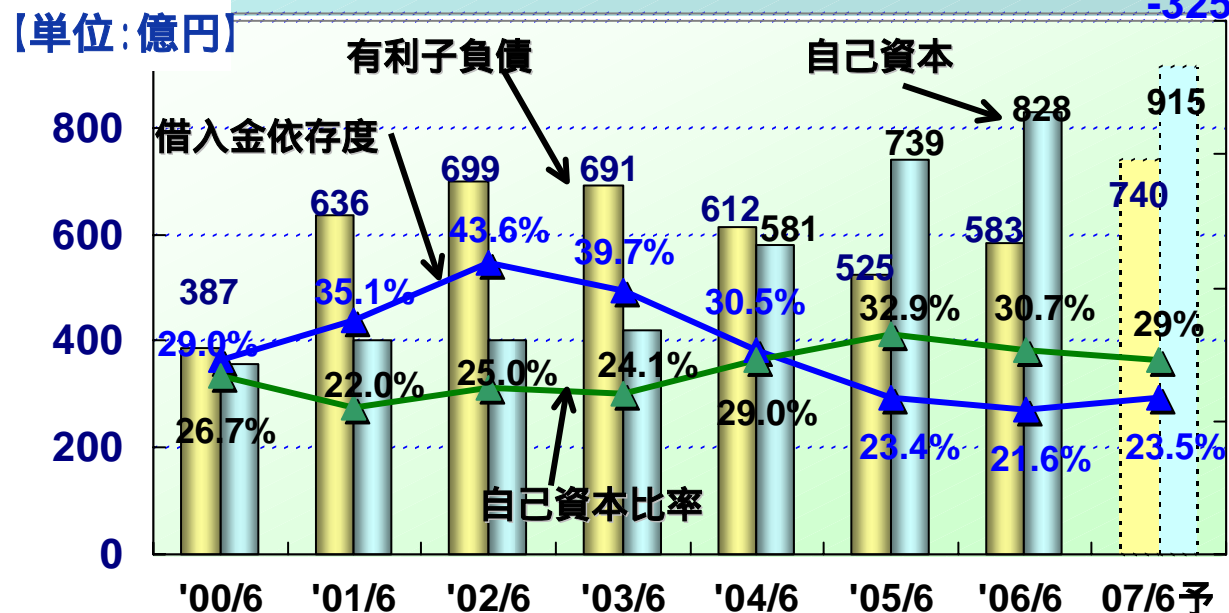
営業CF: 190億円

・利益増加及び資金効率を高め営業CFの増加に注力

投資CF: 325億円

成長戦略投資を実施

- ・生産能力の増強
- ・試作開発ラインの増設
- ・研究開発設備等



09/6期以降はFCFの範囲内で成長投資を続行する

# 主な新設、増設工場(国内)

## FPD増産対応

- ・ODFなどFPD製造装置  
工場新設



(愛知県春日井市)

## 生産集約

- ・小型真空ポンプ製造  
工場増設



(宮崎県西都市)

## FPD増産対応

- ・部品表面処理センター新設



(茅ヶ崎市)

## ポストFPD

- ・ターゲット材製造工場増設
- ・産業機器用製造工場増設



(青森県八戸市)

## ポストFPD

- ・ターゲット材製造工場新設
- ・千葉超材料研究所新設



(千葉県富里市)

## ポストFPD

- ・ポストFPD製造装置  
試作開発拠点リニューアル



(茅ヶ崎本社・工場)

# 主な新設、増設工場および新拠点(海外)

## ポストFPD

韓国・坡州(パジュ)  
カスタマーサポート拠点新設

## FPD増産対応

クリーンルーム増設  
部品加工設備増設



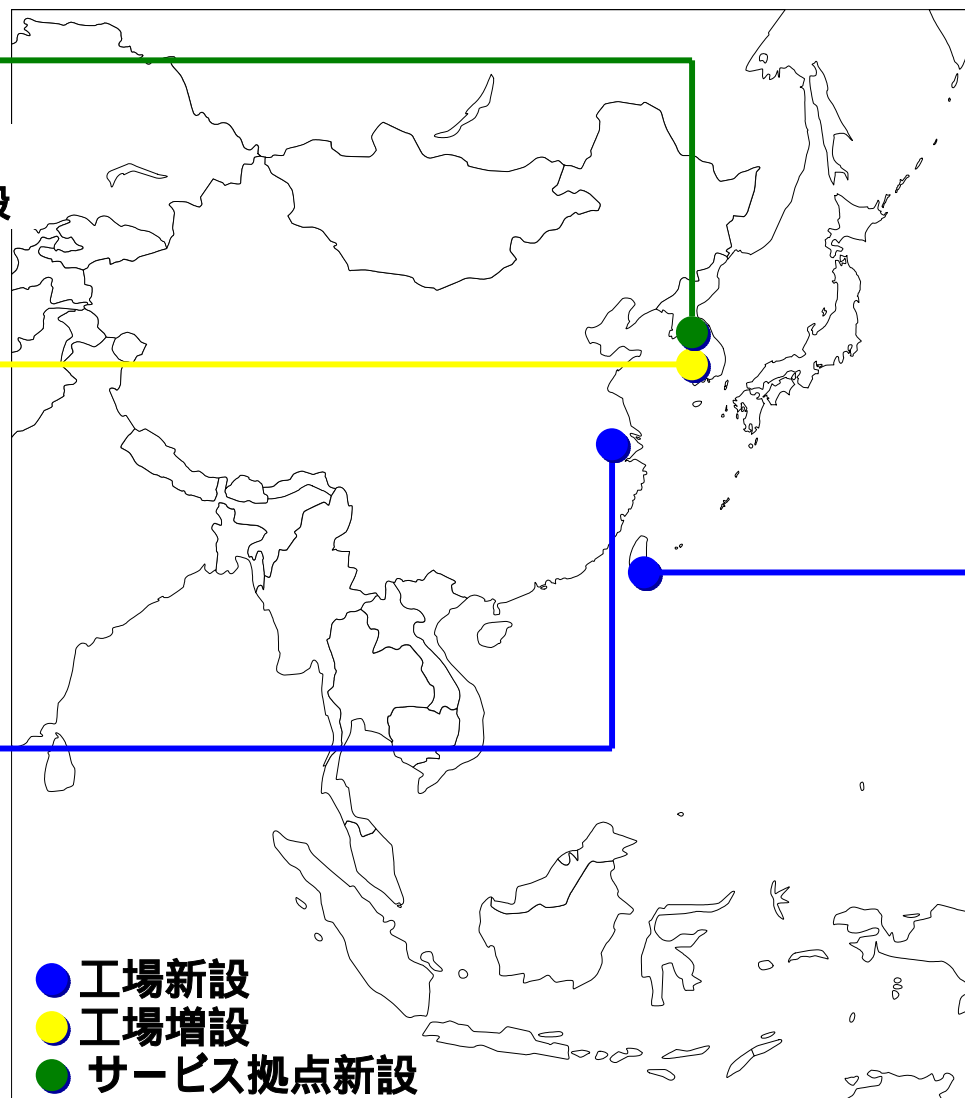
(韓国・平澤市)

## ポストFPD

中国統括管理会社  
制御盤製造工場新設他



(中国・上海市)



- 工場新設
- 工場増設
- サービス拠点新設

## FPD増産対応

FPD製造装置工場新設



(台湾・台南)

制御盤製造工場新設



## ポストFPD

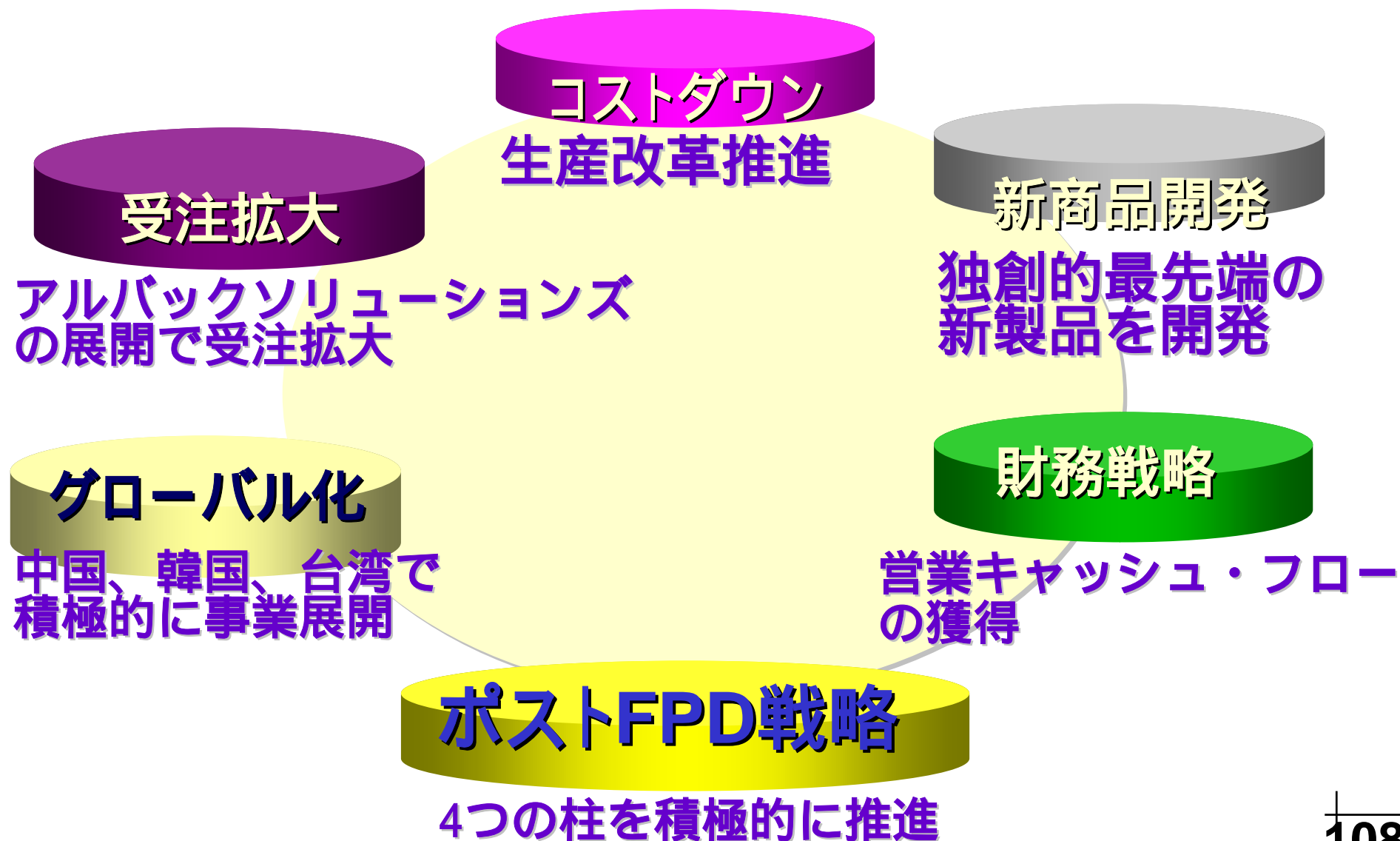
部品洗浄、部品加工  
工場新設



(台湾・台南)

- 2006年6月期連結業績の概要
- 市場環境
- 2007年6月期連結業績予想
- **中長期の事業戦略**

# 事業戦略

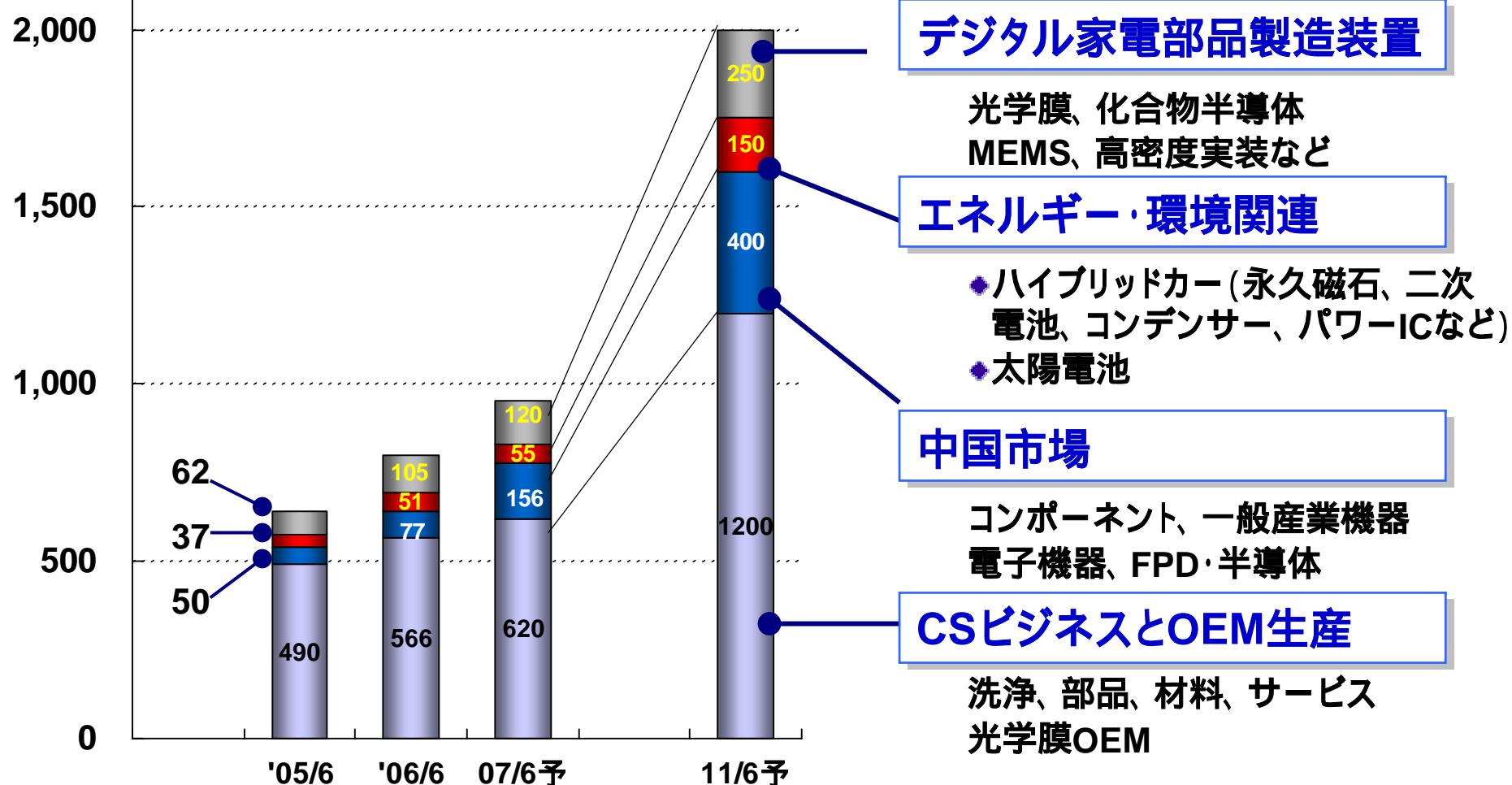


# 中長期の事業戦略

- デジタル家電(薄型TVなど)向け装置を中心に受注増をめざす
  - ▶ 増加する製造負荷や装置大型化に対応するインフラ整備への設備投資を実施
- FPDの設備投資の成長はいずれ鈍化。FPDの次に成長する柱をつくる。(ポストFPD戦略)
  - ◆ MEMS、化合物半導体などのデジタル家電部品製造装置
  - ◆ エネルギー・環境関連装置(ハイブリッドカー・太陽電池)
  - ◆ 世界の製造業を牽引する中国
  - ◆ 安定経営のためのカスタマーサポート(CS)とOEM生産

# ポストFPD戦略(受注目標)

【単位:億円】



【上記の各項目の目標受注額は一部重複して合算されています。  
また、目標受注額は事業規模を判断するための参考値で、当社の連結受注額に合算されない額も含まれています。】

本日は  
ありがとうございました

ULVAC